



S.E.Aプロジェクト

海の体験活動 推進プロジェクト

かいゆう
8歳までの海遊教室プログラム集



National Institution For Youth Education
国立青少年教育振興機構

目次

1. 国立青少年教育振興機構が取り組む「S.E.Aプロジェクト」 P. 1

2. 海型の国立青少年教育施設が実施した「海遊教室」(概要) P. 2

3. 指導者のみなさんへのメッセージ P. 10

◆「体験」を通して、子供の内面で何が起きているのか

大阪総合保育大学 学長 大方美香 氏

◆ 海の体験活動に期待すること

東京海洋大学学術研究院 海洋政策文化学部門 教授 千足耕一 氏

4. 「海遊教室」プログラムの紹介

(1)「AWA」うみのようちえん」国立淡路青少年交流の家 P. 14

(2)「8歳までの海遊教室」国立室戸青少年自然の家 P. 21

(3)「海の声キャンプ」国立若狭湾青少年自然の家 P. 26

(4)「うみはともだち」、「トビーでチャレンジ」国立若狭湾青少年自然の家 .. P. 31

(5)「うみとともだち」国立大隅青少年自然の家 P. 36

(6)「ちびっ子大集合」国立沖縄青少年交流の家 P. 41

(7)「海辺の遠足」国立江田島青少年交流の家 P. 48

5. 海の体験活動における安全管理 P. 52

NPO法人海に学ぶ体験活動協議会(CNAC)代表理事 三好利和 氏

6. プログラムの評価方法の検討 P. 56

7. おわりに P. 58

1. 国立青少年教育振興機構が取り組む「S.E.Aプロジェクト」

S.E.Aプロジェクトとは??

豊かな感性や好奇心が芽生える低年齢期の子供たちを対象に、

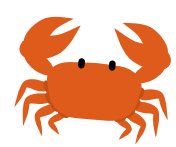
- ① 「海」と直接ふれあえる機会を提供し、海に親しむ楽しさや「海」に対する関心を育み、
- ② 効果的な指導方法や必要な安全対策等の検討、「海」での活動の効果を明らかにすることで、

我が国を取り囲む「海」を活用した体験活動の拡充を図るプロジェクトです。

S : Sense (感性、感覚)	→	海を感じ、
E : Experience (経験、体験)	→	海での体験をとおして、
A : Awake (気づき)	→	海の楽しさに気づいてほしい

どんなプロジェクト??

- 🐟 「8歳までの海遊 (かいゆう) 教室」の実施・普及
 - 🐟 「8歳までの海遊教室」についての勉強会の実施
 - 🐟 指導者向けの「8歳までの海遊教室」プログラム集の作成
- の3つに取り組んでいます。



海遊 (かいゆう) 教室とは??



低年齢期の子供たちに、海での体験活動をより身近に感じてもらうためには、「海」で「遊ぶ」ことからスタートしたいという思いを込めて、「海遊教室」と名付けてプログラムを実施しています。

周囲を「海」に囲まれている日本ですが、子供たちに自然体験活動を提供する団体の活動フィールドを見てみると、「海」の割合は1割程度*で、山や川と比較するととても少ない状況です。国立青少年教育振興機構が「海遊教室」を試行的に実施し、その成果や課題をまとめ、地域に広がるよう取り組んでいます。

*文部科学省(2002)「自然体験活動の評価・ニーズの調査研究」より

2.海型の国立青少年教育施設が実施した「海遊教室」

- ① 「AWA」うみのようちえん」国立淡路青少年交流の家
- ② 「8歳までの海遊教室」国立室戸青少年自然の家
- ③ 「海の声キャンプ」国立若狭湾青少年自然の家
- ④ 「うみはともだち」「トビーでチャレンジ」
国立若狭湾青少年自然の家
- ⑤ 「うみとともだち」国立大隅青少年自然の家
- ⑥ 「ちびっ子大集合」国立沖縄青少年交流の家
- ⑦ 「海辺の遠足」国立江田島青少年交流の家

各プログラムの詳細(実施手順や準備物等)はP.14以降に掲載しています。
実際にみなさんが、海の体験活動プログラムを行う際の参考にしてください。

なお、実施するフィールドによって潮の流れや地形はもちろん、遊泳禁止区域など活動を制限されることがありますので、フィールド近隣の自治体や漁業共同組合などに予めご確認ください。



AWAJIうみのようちえん

国立淡路青少年交流の家 P.14

みんなは海の生き物
知ってるかな？



イソギンチャクだ！
さわってみようかな



岩場では
両手も使うと
安心だね



ほらみて！
カニもいたよ



すばしっこいなあ、
どうやって捕まえよう？



水槽に入れて、
水族館の完成！



このカニは、
オス・メスどちらかな？

ウニをさわるのは初めてだね！



保護者や幼稚園教諭等からのアンケートより

- 始めは、岩に触れることや岩場を歩くことに戸惑いを見せ、水に濡れることに慎重だったが、時間が経つにつれて、動きが大胆になり、潮だまりも気にせず入るようになった。
- みんなで同じ体験をし、感動体験を重ねたことで、幼稚園でのクラスの話し合いでは、他の友達の意見や気持ちに共感することが増えた。
- 幼稚園の園庭などで、生き物を見つけた際は、体の特徴や性別に興味をもつようになった。
- 生き物を捕まえた時には、「かわいそうだから逃がしてあげよう」と発言するなど、生き物を思いやる気持ちが強くなっていると感じた。

8歳までの海遊教室

国立室戸青少年自然の家 P.21

海にはどんな生き物があるかな?



こんなに大きなカニもいるよ



ウェットスーツに着替えよう

見てみて! 魚もいたよ



なんだろう? どじょうみたい



ウニが歩いてる どうやって歩くの?



こんなに生き物がいたよ

保護者や幼稚園教諭等からのアンケートより

- はじめは怖がりながら岩にのぼったり、恐る恐る潮だまりに足を入れてみたりしていたが、徐々に不安がなくなり、濡れることも気にせず積極的に遊ぶようになった。
- 保育園ではいつも大人しい子が、磯で生き物を見つけると大はしゃぎで喜んでいた。
- 保育園では活発ではなかった子が、一番いきいきと活動していた。他の子供たちに「ここを探してみよう!」「ここに生き物がいそうだよ!」と声をかけていた。
- 活動前よりも活動後の方が、意欲的だった。活動後は図鑑をみるようになり、「これがいたよね」「またいきたいね」といった会話で子供たち同士で盛り上がっていた。

海の声キャンプ

国立若狭湾青少年自然の家 P.26

2 海型の国立青少年教育施設が実施した「海遊教室」(概要)

海楽しさを
いっぱい見つけてね



足元に魚がいるよ



箱メガネって
楽しいね



初めての
ライフジャケット



すぐに慣れて
大はしゃぎ



おかあさんに、
カニをとって
あげるね



シーカヤックで
冒険だね



きれいな石や貝も
いっぱい



保護者等からのアンケートより

- はじめは、親と離れて活動する際に涙を流していた子供たちも、海に入るとすぐに泣きやみ水泳や磯遊びを楽しむ様子が見られた。
- 年中の園児の中には、水深があるところを怖がっている子供もいたが、慣れてくると足の届かない沖の方まで行ってみようとチャレンジする様子が見られた。
- 子供たちの海の活動では、自然を満喫するだけでなく、初めて出会った子供同士で仲良くなり一緒に活動することができた。
- 親から離れて(子供だけで)活動するのは初めてで不安に思っていたが、磯の生き物を捕まえたり、他の子供と泳いだりとたくましい姿を見ることができて嬉しかった。
- (飛び込みなど)できないことが、できるようになったことが親子共に嬉しかった。

うみはともだち・トビーでチャレンジ

国立若狭湾青少年自然の家 P.31

ファスナーよし！
お互いに
確認だ



カニがいるんだけど、
手が届かない！



準備ができれば、
磯へ出発だ



今度は、
海でおよいでみよう



ぼくはトンネル
を掘ろう！



すごい！たくさん
魚が泳いでる



砂って、
あたたかいんだ！



保護者や幼稚園教諭等からのアンケートより

- 海、砂浜、磯、全てに自ら向かっていた。泳ぐ・触れる・観察するなど全身がよく動いていた。
- 「一緒に行こう」「もっと遠くに行きたいからついてきて」など子供同士で助けあって楽しく活動でき、いつも以上に友達との会話が多くなっていた。
- 普段は消極的な子が、海ではみんなにつられて遠くの方まで自ら泳いでいくなど積極的な姿が見られ、表情がいきいきとしていた。
- 水に顔をつけることに抵抗があった子が、海の体験後には、幼稚園のプールで自ら顔をつけ泳げるようになった。

うみとともにだち

国立大隅青少年自然の家 P.36

みんなは海で
泳いだことあるかな

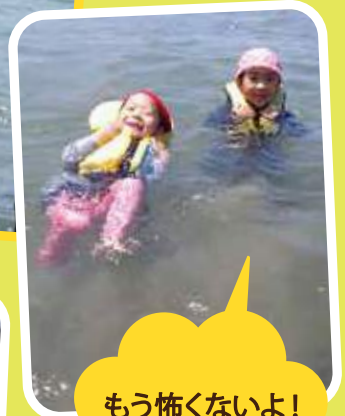


みんなと手をつなげば
安心だね

浮いてる〜♪
ラッコさんみたい



レスキューチューブも
使ってみよう



もう怖くないよ!



保護者や幼稚園教諭等からのアンケートより

- はじめは海を怖がり、同じグループの友達や大人の手を離さない子供もいたが、海水が顔にかかっても海の中に入ることができた。
- 子供同士で「○○ちゃんみたいにこうするといいよ」と声をかけ合う姿が見られた。また、大人が「できるようになったね」「大丈夫だよ」と声をかけることで恐怖心が無くなり、より深い方へ進んで泳ぐようになった。
- 干潮が近づいてきた潮溜まりでは、夢中でヤドカリを探して喜んでた。幼稚園の園庭にはいない生き物なので、とても嬉しかったようだ。

2 海型の国立青少年教育施設が実施した「海遊教室」(概要)

ちびっこ大集合

国立沖縄青少年交流の家 P.41

海に入る前には、
準備体操だ



でも、やっぱり初めての
海はこわいよ



まずは浅いところで
浮いてみよう



幼稚園の砂場より白いね



ライフジャケットの
確認、
パパお願い



シーカヤックにも
挑戦だ!



大型カヌーも
楽しいね

保護者等からのアンケートより

- はじめは海を怖がっている子供もいたが、他の子が泳いだり、浮いたりして遊んでいる様子を見て、徐々に自ら進んで海に入るようになった。
- 特に、海中の魚を見つけると驚きや喜びの歓声をあげていた。
- ライフジャケットを着用してうまく浮くことができるようになると、子供たちお互いに数をかぞえながら浮いている時間を競い合う姿も見られた。
- 活動後には、また海に来てヤドカリや魚を観察したいと話していた。

海辺の遠足

国立江田島青少年交流の家 P.48

2 海型の国立青少年教育施設が実施した「海遊教室」(概要)

今日は砂浜で
遊びましょう



ライフジャケットを
着けて・・・



軍手も着けて、
準備OK



はじめは一人で
作っていても



いつのまにか、
みんなで協力



海辺の遠足、
楽しかったかな?

この貝殻は
おみやげにするの



海辺で「絵本のよみきかせ」



保護者や幼稚園教諭等からのアンケートより

- 大人から見ると、浜辺には子供の興味を惹きつけるようなものは少なく、砂遊びが中心になると思っていたが、子供たちは多様な遊びを生み出していたことに驚かされた。
- 普段過ごす“こども園”とは違う環境の中で、海の音を聞いたり、波を感じたり、海の干満潮を知る経験や、砂浜で貝殻や漂流物を使って遊んだりなど、海を近くに感じることができた。
- 今回のような海での遊び体験は、子供たちにとって初めてだった。全員が“こども園”での活動(行動・表情)と様子が全く違っていった。魚や貝殻、砂浜にとっても興味関心を示しており、瞳は「キラキラ」と輝いていた。
- いつもは口数が少ない子が、沢山の発言をしたことに驚いた。大変楽しい経験になった。

3.指導者のみなさんへのメッセージ

「体験」を通して、子供の内面で何が起きているのか

大阪総合保育大学
学長 大方 美香 氏

子供の活動は、大人から見れば「ただ遊んでいるだけ」、「楽しそうにしているだけ」と捉えられがちです。一方、就学前の幼児教育は、「環境を通して」、「活動を通して育つ」ことを目指しています。子供は、活動を通して何を体験し、何が育っているのでしょうか。子供の「生きる力を育む」と言われますが、生きることは活動すること。しかも、その活動は全て内からの自己活動です。子供の一見ささいな力にみえることは、子供の内なる創造的な活動をしたという衝動から出たものです。

「体験」とおして物事を知ることがいかに重要か

子供の活動は、生きる力の源流となる体験の蓄積です。特に幼児期は、生きることの全てを身体性、精神性といった体と心を通じて学ぶという発達の特徴があります。様々な人や物、自然を通じた体験を繰り返しながら、「生きる力」として必要な事物について、また「ぼくって、わたしって」という自己や他者についても学んでいます。大切なことは、体験から学んだことを基盤とし、それを使って新たな学びを得るという体験の連続性や統合性がこの時期の特徴であり、あらゆること、生きる全てを学んでいます。

「体験」とおして、子供たちの内面で何が起きているのか

子供の活動は、大人とは異なり、自由で、自発的で、自己目的的で、喜びや楽しさ、緊張感などをともなう全人格的な自己表出・表現活動です。また、子供自身が興味や関心を持って、環境に主体的、自主的、自発的に関わり、活動を想像・創造し、展開していくような働き全体を示します。大人は、「体験」を通して、子どもの内面で何が起きているのかに気づく視点が大切です。子供の学び(体験の多様性・関連性)は、「体験」を通じた学びの連続性・統合性ですが、その体験から得た内面的学びを表現することが大切です。それは描くこと、奏でること、言語にすること、見立てること(ごっこ遊び)等、五感を通じて学んだことを表現することが、新たな体験として子供の学びに繋がります。

幼児期が原体験として種を撒くのいかに適しているか

大人と同じ脳の容量になるといわれる8歳までの感性豊かな体験が、体験の多様性・関連性となり、生きる力のもととなるといわれています。幼児期は五感(視覚・聴覚・触覚・嗅覚・味覚)が身体性よりも先に発達します。感性豊かな体験は、子供の想像性を育みます。自然体験は、知識よりも五感など感性に訴える活動が多く含まれ、「気付くこと、感じること、試すこと、根気よく取り組むこと、葛藤しながら諦めずに取り組むこと、工夫すること、体験を通じた自然・人・物との関わり方等」を学ぶ機会となるといえます。大人にとって、子供の外から見える活動は理解しにくいともいえますが、大人はこれを妨げず、むしろ機会を与え、環境を用意し、子供がその中で自分の「内なる力の働き」を強めるように指導しなければならないといえるでしょう。

子供によって感じ方も見え方も異なっている (うまく言葉で表現できない年齢である)

子供の活動は、大人による直接的な働きかけと環境が子供に働きかける間接的なことがあります。教育は、自然か人間か事物によって与えられますが、子供の心身の外的発達や感性という内的発達は一人一人異なります。同じ年齢であっても、同じ環境であっても一人ひとりの発達過程や体験の質により学びも表現も異なります。自然環境さえ与えれば育つということではありません。子供の活動は、一見じっとしており何もしていないように見えて、実は「なんだろうと考える思考の芽ばえ、見て楽しみ面白さに気づく学びの芽ばえ、不思議だと思ふ気持ちの芽ばえ、やってみたくなる取り組みへの芽ばえ等」も大切な育ちです。この発達過程をいかに活用するかは、指導者(大人)の子供理解であり、人間の教育といえるでしょう。



POINT 1

身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。

POINT 2

友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気づき、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。

- ・身近な事象（環境）に積極的に関わる
- ・物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりする
- ・考えたり、予想したり、工夫したりする
- ・友達の様々な考えに触れる
- ・（友達の様々な考えに触れ）自分と異なる考えがあることに気づく
- ・（友達の様々な考えに触れ）自ら判断したり、考え直したりする
- ・（友達の様々な考えに触れ）新しい考えを生み出す喜びを感じる
- ・（友達の様々な考えに触れ）自分の考えをよりよいものにする



POINT 3

自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。

POINT 4

身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気づき、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にす気持ちをもって関わるようになる。

- ・自然に触れて感動する体験をしている姿、自然の変化などを感じ取る
- ・好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現する
- ・自然への愛情や畏敬の念をもつ



「海の体験活動に期待すること」

東京海洋大学学術研究院 海洋政策文化学部門
教授 千足 耕一 氏

「理論物理学者として著名なアルバート・アインシュタインは、“体験はなぜ大切か”ということに関して、「何かを学ぶためには、自分で体験する以上にいい方法はない」という名言を残しています。ここでいう体験とは、疑似体験や間接的な体験ではなく、直接的な体験を述べているのだろうと想像できます。

海の体験活動にこだわりを持ち、子供たちに「本物の自然に触れる直接体験」を与えてきた先駆者に、ジャック・T・モイヤー博士がいます。モイヤー氏はその著書『子どもは海で元気になる』のなかで、「海は大きすぎて破壊されることはない」という考え方を捨て去ることを強調し、「私たち人間は、健康な海の実在なしに生きることはできません。だからこそ、海について学ぶ機会を設けることは、21世紀の最重要課題と言えるのです」と述べています。そのような考えを基に「何よりも自然環境に目を向けることを重視し、生徒個々人が直接フィールドに出て、自ら発見することを基本とする」海の教育プログラムを三宅島サマースクールで実践しました。同時に、その著書の中で、このような体験は出来るだけ早い時期に行われることが大切であるとも述べています。

海は極めて身近な大自然です。海は、人知が及ばないところ、天地自然と対峙できる場所であると海洋冒険家の白石康次郎氏も述べています。自然と関わる中でこそ、自然に対する本当の感性を養うことも可能になるのではないかと考えられます。

海には様々な生物が棲んでおり、我々はそれを食料として利用しているといった現実があります。捕獲する、調理する、食べる、などの一連の体験をすることから、生きている実感を得ることも出来ます。海は貴重なタンパク源を含んだ生き物たちが生息する場所でもあるということについて体験を通して学ぶことは、海を大切にしようといった認識を得るために最良の方法であると確信します。

近年では、少子化に拍車がかかり、子供たちも学習塾や習い事などで忙しく、例えば海洋少年団の団員数が減少するなどの現状も報告されています。また、親や教師たちの安全面に関する心配などから、海での遠泳行事が減少してきているといった報告があります。その一方で、国立青少年教育振興機構のなかでは、幼少時からの海での体験活動の実施について推進しようという動きもみられます。指導者が安全面に関して十分にトレーニングを積み、幼少期から本物の海に触れることのできるプログラムが開発され、子供たちが海を大切にする時代が来ることを期待します。

①. AWAJIうみのようちえん

国立淡路青少年交流の家

ねらい

- 海の豊かな自然における体験活動を通して、海に対する豊かな感受性や海に対する関心を培う。
- 海の自然に親しみ、海に進んで関わろうとする態度を育成する。

概要

磯の生き物を探して、採取した生き物を水槽に入れて観察する。
採取したカニやウニ、貝などを実際に手に取り、特徴を観察する。

- **内容** 磯の生き物観察、磯の水族館をつくろう
- **対象** 幼稚園の年長児童
- **所要時間** 2時間半程度
- **人数** 25名程度

準備物

安全対策

- ライフジャケット (子供用、大人用)
- レスキューチューブ
- 救急セット
- 毛布
- 軍手 (子供用、大人用)
- 真水
- AED



磯観察用

- 金魚網
- 磯ノミ
- 箱メガネ
- 虫メガネ
- 透明バケツ
- 水槽
- エアレーション装置

導入・ふりかえり用

- ホワイトボード
- 説明用紙芝居・フリップ

熱中症対策

- クーラーボックス
- 給水用のお茶
- 氷板
- 経口補水液
- 氷嚢
- うちわ

子供たちの持ち物

- 帽子 (あご紐付き)
- 水着
- 長袖シャツ
- 長ズボン
- タオル
- 濡れてもよい靴・靴下
- ビニール袋
- 替えの靴
- 弁当
- 水筒

フィールド環境と安全管理

活動場所 磯

子供たちへの注意喚起

- ① ライフジャケットや手袋 (軍手) は途中で外さない
- ② 3人組で行動する
- ③ 磯 (岩場) では、走ったり跳んだりせず、岩を手で掴むなどして移動する
- ④ 水分補給やトイレに行きたいときは、必ず指導者 (先生) に伝える

フィールド 環境と 安全管理

予測されるリスクとその対応

CASE1. 岩場での転倒

- サンドルでなく、アクアシューズ(マリンシューズ)や運動靴を着用する
- 長袖、長ズボン、靴下、手袋(軍手)を着用する
- 転倒時の緩衝としてもライフジャケットを着用する

CASE2. 溺水及び行方不明

- ライフジャケットの着用する
- バディで行動する
- 指導者はレスキューチューブを携帯する

CASE3. 熱中症

- 帽子を着用する
- 飲料水の確保と水分補給の声掛けを行う
- 気温(高温)による活動時間の短縮

連携の ポイント

講師との連携

- 当日の細案(進行細案、指導細案など)による役割分担の確認
- 当日及び当日までのスケジュールの確認
- フィールドの実地踏査

幼稚園教諭等との連携

- 当日の細案(進行細案、指導細案など)による役割分担の確認
- 安全対策の共有
- 配慮の必要な子供の把握
- 「園のおたより」で活動の概要や服装について保護者に周知

子供たちの 反応

- 始めは、岩に触れることや岩場を歩くことに戸惑いを見せたり、海の水で濡れることに慎重だった。時間が経つにつれて、動きが大胆になり、潮だまりも気にせず入るようになった。
- 海に入ったことがなく岩場を怖がっていた子供も、魚を見つけたとたん笑顔になっていた。
- みんなで同じ経験をし、感動体験を重ねたことで、クラスでの話し合いでは、他の友達の意見や気持ちに共感することが増えた。
- 磯遊びの絵や海の生き物の製作意欲が高まり、いつもより趣向を凝らしたものや、時間を掛けて取り組む姿が見られた。
- カニを描く際、オスとメスの特徴を描き分けていた。
- 生き物を見た時に、体の特徴や性別などに興味を持つようになった。
- 生き物を捕まえた時に、「かわいそうだから逃がしてあげよう」と発言するなど、生き物を思いやる気持ちが育っていた。

プログラムの流れ

AWAJIうみのようちえん

所要時間	内容	指導者の働きかけ	留意点	準備物
	開始前の 事前確認	<ul style="list-style-type: none"> ● 水着の上から長袖・長ズボンを着用し、靴下・靴を履いているか確認する。 ● 帽子を着用させる。 ● トイレを済ませておくよう声を掛ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 極力、肌を露出させないようにし、怪我や日焼けの防止に努めましょう。 ● 帽子を着用させ、熱中症の予防に努めましょう。 	
20分	導入	<ul style="list-style-type: none"> ● 「うみのようちえん」について、どのようなことをするのか説明し、活動の見通しをもたせる。 ● 海にどのような生き物がいるのかを尋ねることで、子供たちの海に対する知識や関心を把握する。 ● 生き物を絵に描かせることで、ヒシの位置や脚の数などに疑問をもたせ、特徴に着目させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・魚のヒシはどこにあるのだろう ・カニの脚は何本だろう 等 ● 当日の朝に採取した生き物を見せ、関心を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 屋根のあるところで行うことで、天候に左右されず集中して話を聞ける環境を確保できます。 ● 説明は、紙芝居やフリップ、ホワイトボードを使って視覚化し、分かりやすく伝えるとよいでしょう。 ● 子供たちの知識を引き出すことで、海への認識を確認すると同時に疑問をもたせ、興味・関心を高めることができます。 ● 「本物」を見せることで、興味・関心がより高まります。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 説明で使用する紙芝居やフリップ ● ホワイトボード ● 水槽(予め採取した磯の生き物を入れておく)
5分	浜へ移動 (徒歩)	<ul style="list-style-type: none"> ● 指導者を先頭に、2列で移動する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 幼稚園教諭等は列の途中及び最後尾に入り、誘導しましょう。 	



海の生き物がたくさん描けたよ!

所要時間	内容	指導者の働きかけ	留意点	準備物
10分	注意喚起 (セーフティーク)	<ul style="list-style-type: none"> ● 装備について説明・確認をする。 ● ライフジャケットと軍手の装着方法について説明する。 ● ライフジャケットを装着させ、指導者が正しく装着できているか確認する。 ● 確認できた子供から、軍手を着用させる。 ● ライフジャケットと軍手は、途中で外さないことを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 指導者が正しく装着するところを見せ、手本を示しましょう。 ● ライフジャケットの確認漏れを防ぐため、確認できた子供から軍手を配りましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ライフジャケット ● 軍手
		<ul style="list-style-type: none"> ● 安全確保のため、セーフティークを行う。 ● バディを確認する。 ● 磯では走らないこと、岩に跳び移らないこと、不安定な所は手で体を支えるとよいことを確認する。 ● 水分補給やトイレに行きたい時は、幼稚園教諭等に伝えることを確認する。 <p>POINT!</p> <p>★フリップを使いながら説明すると、より説明に集中できるようになります!</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● セーフティークは、磯に移動する直前に行くことで記憶に残りやすくし、効果を高める。 ● バディは2人組を基本とし、より安全に活動するために各ペアに大人1人が付く。 ● 磯の歩き方は、イラストを見せ視覚化し、分かりやすく伝えましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ● セーフティーク用のフリップ
5分	磯へ移動 (徒歩)	<ul style="list-style-type: none"> ● 指導者を先頭及び最後尾に付けて移動する。 <p>POINT!</p> <p>★滑りやすかったり、段差があったりすると不安そうな表情の子供がいます。</p> <p>★姿勢を低くしたり、岩に手を着くことでバランスが取れることが分かると、自信を持って進めるようになります。</p> <p>★余裕が出てくると、フナムシや岩に張り付いている貝を見つけ、興味を示すようになります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 指導者は先に磯へ移動し、足場の悪い場所に立ち、安全管理に努めましょう。 	

所要時間	内容	指導者の働きかけ	留意点	準備物
60分	磯の観察	<ul style="list-style-type: none"> ● 必要な道具を渡し、タイドプール(潮だまり)の観察を始める。 ● 子供の安全管理と観察の補助を行う。 ● 見つけて採取した生き物をバケツに移す。 <p>POINT!</p> <p>★はじめは、「何もいない」と言っているが、静かに待っていると生き物が動く様子に気づくでしょう。</p> <p>★タイドプールに金魚網を入れても、なかなか生き物を捕まえられない子供もいます。</p> <p>★恐る恐るイソギンチャクを触ったりヤドカリを手に乗せて観察するようになり、興味を持っている様子が見られます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 指導者や大人は安全管理に努めましょう。 ● 指導者はレスキューチューブを携行するとともに、救急セット等の準備をしておきましょう。 ● 磯ノミなど、子供が持つて移動すると危険な物は大人が持つようにし、必要な時に渡すようにしましょう。 ● 天候や子供の体調、集中力を加味し、必要に応じて観察時間を短縮しましょう。 	<p>子供たちに渡すもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 金魚網 ● 箱メガネ ● 虫メガネ ● 透明バケツ <p>指導者の携行品</p> <ul style="list-style-type: none"> ● レスキューチューブ ● 磯ノミ <p>浜に設置するもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 救急セット ● 真水 ● AED ● 毛布 ● クーラーボックス ● 給水用のお茶 ● 板氷 ● 経口補水液 ● 氷嚢 ● うちわ
5分	浜へ移動 ふりかえりの 場所へ移動	<ul style="list-style-type: none"> ● 指導者を先頭及び最後尾に付けて移動する。 ● 浜に到着したら、人数や体調を確認する。 ● ライフジャケットを脱がせ、怪我や体調不良の子供がいなかったか確認する。 <p>POINT!</p> <p>★移動の際、子供たちは捕まえた生き物の話をしているので、指導者はどんな話をしているか聞いておくと、ふりかえりの際のポイントになるでしょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 指導者は先に磯へ移動し、足場の悪い場所に立ち、安全管理に努めましょう。 	

所要時間	内容	指導者の働きかけ	留意点	準備物
30分	ふりかえり	<ul style="list-style-type: none"> ● 「ふりかえり」の前に、採取した生き物をバケツから水槽に移しておく。 ● 生き物の入った水槽を「磯の水族館」に見立て、それらの生き物について子供たちの疑問に答えたり、生態について話をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・カニのお尻はどこにあるだろう ・このカニは、オス、メスのどちらだろう ・ウニはなぜ岩に付いているのだろう ・フナムシとダンゴ虫は似ているけれど仲間なのだろうか 等 ● 理解や関心を深めるために、実際に生き物を見たり触ったりしてもらおう。 ● 子供たちに感想を聞いてみる。 <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>POINT!</p> <ul style="list-style-type: none"> ★子供たちの疑問に答えられるよう、専門性の高い講師をお呼びしておくことより学びが深まります。 ★生き物を捕まえることが難しかったことや、海の生き物を初めて触ったことなど、体験して心に残ったことを聞いてあげましょう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ● 子供たちの好奇心を大切にしながら、生き物や海の魅力を伝えましょう。 ● 指導者の話で分かったことを、実際に見たり触ったりして確認できる時間を確保しましょう。 ● 屋根のあるところで行うことで、天候に左右されず集中して話を聞ける環境を確保できます。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 水槽 ● ホワイトボード ● エアレーション装置 (電源が確保できる場合に限る)
10分	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ● 海や自然に対して、自分から進んで関わってくれるようお願いを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 今日の体験や思い出が、次につながるよう話しましょう。 	

セーフティーク用フリップ

バディシステムの説明

- まずは3人組になってもらう。
(バディシステム自体は2人組が一般的です。今回は指導できる大人と園児の数の関係で3人組にしています)
- お友達の名前と顔をしっかり覚える。
- 前に立った大人が「バディ」と掛け声をかけたら、焦らないで、自分たちの安心するペースで3人組になる。



岩場の歩き方

- しっかりと足を置いて、石や岩がぐらぐらしないか確認する。
- 手で岩をつかんで、体がぐらぐらしないように歩く。



岩場を歩くときは、
ジャンプして走らない。

②. 8歳までの海遊教室

国立室戸青少年自然の家

ねらい

- 海での自然体験活動を通して、海や磯の生き物に対する興味・関心を高める。

概要

磯の生き物を探して、採取した生き物を水槽に入れて観察する。

- **内容** 磯の生き物観察
- **対象** 幼稚園の年長児童
- **所要時間** 2時間程度
- **人数** 25名程度

準備物

安全対策

- ウェットスーツ(子供用、大人用)
- マリングローブ
- マリンブーツ
- 拡声器
- 真水
- 避難経路の地図
- AED
- 雷アラート
- 笛
- 救急セット
- 冷却パック

磯観察用

- 網
- 箱メガネ
- 水槽

その他

- 生き物カード



子供たちの持ち物

- 水着
- ラッシュガード
- サングル(移動時に使用)
- タオル
- 紅白帽子
- 着替え
- 水筒
- 水泳バッグ

フィールド環境と安全管理

活動場所 磯

子供たちへの注意喚起

- ① 活動場所では走らない
- ② グループ(班)で行動する
- ③ 決められた範囲内で活動する
- ④ 泳がない

フィールド 環境と 安全管理

予測されるリスクとその対応

CASE1. 磯での怪我

- 応急処置のための救急セットを準備する

CASE2. 熱中症

- 適宜、水分補給をするよう声掛けを行う

CASE3. 海難事故

- 必ずグループ(班)で行動させる
- 各グループに指導者を付ける

連携の ポイント

幼稚園教諭等との連携

- 安全な活動に向けて、支援が必要な園児を事前に把握
- スムーズな活動に向けた活動計画の入念な打合せ
- 活動時間の確保に向けて、当日の準備を早く行うため、園児の体重、身長、靴のサイズを事前に確認
- ウェットスーツやマリンブーツを保育園に貸し出し、サイズが適切かどうか確認
- 保護者へ「8歳までの海遊教室」のパンフレット及び実施要項の配布(事業趣旨の周知)

子供たちの 反応

- 普段は大人しい園児も積極的に活動していた。
- 生き物探しに夢中になり、波や風を体で感じる事ができていた。
- 初めて海に入った園児もいたが、経験の有無に関わらず、活動に夢中になっていた。
- 箱眼鏡を使用して、魚を嬉しそうに観察している様子が見られた。
- 友達と協力して、カニを捕まえようとしていた。
- 岩をひっくり返して生き物を見つけた時、大きな声を上げて喜んでいた。
- 最初は、恐る恐る岩に乗ったり、潮溜まりに足を入れていたが、徐々に濡れることも気にせず、積極的に遊ぶようになっていた。
- 保育園では運動が好きで動き回っている子が、岩の上を歩いたり、渡ったりすることには慣れていない様子で、転んだり、動きがとれなくなったりしている姿が見られた。
- 捕まえた生き物をお互いに観察し合うことで、たくさんの生き物に興味をもっていた。
- 捕まえた生き物を海に返す時は、寂しそうな表情を見せていた。
- 活動後に、捕まえた生き物を図鑑で探し、友達同士で話をしている姿が多く見られた。
- 活動から帰った後も、「楽しかった!また行きたい!」と興奮気味に話している様子が見られた。

プログラムの流れ

8歳までの海遊教室

所要時間	内容	指導者の働きかけ	留意点	準備物
5分	導入	<ul style="list-style-type: none"> ● 海にはどんな生き物がいるか確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 磯観察に興味を持てるように、できるだけ多くの子供に発表してもらいましょう。 	
5分	磯観察の説明	<ul style="list-style-type: none"> ● 使用する道具の説明をする。 ● 危険な生き物について説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ウツボ、イモガイ、ヒョウモンダコなどの危険生物は見つけても触らないよう注意徹底しましょう。 ● 見るだけであれば、危害がないことも伝えましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 網 ● 箱メガネ ● 水槽 ● 生き物カード
10分	海の活動準備	<ul style="list-style-type: none"> ● ウェットスーツ、マリンブーツを着用させる。 <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>POINT!</p> <p>★ウェットスーツは少し窮屈なため、一人で着ることができない子供もいます。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ● グループごとに分かれて準備をする。 ● 各グループに指導者を1名つけるとよいでしょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ウェットスーツ ● マリンブーツ
15分	浜へ移動(徒歩)	<ul style="list-style-type: none"> ● グループごとに一列で移動する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 車道を横断する際は、一度立ち止まり、左右の車を確認するよう指導しましょう。 	

所要時間	内容	指導者の働きかけ	留意点	準備物
5分	注意喚起 (セーフティーク)	<ul style="list-style-type: none"> ● 活動中の約束について説明する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 活動場所では走らない。 ・ 必ずグループで行動する。 ・ 決められた範囲内で活動する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 落ち着いて話を聞くことができるよう、グループごとに整列して座るとよいでしょう。 	
5分	道具の準備	<ul style="list-style-type: none"> ● マリングローブを着用させる。 ● 磯観察で使用する網、箱メガネ、水槽を各グループに配る。 	<ul style="list-style-type: none"> ● マリングローブが左右そろっているか指導者が確認しましょう。 ● 各グループに必要なものが揃っているか再度確認しましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ● マリングローブ ● 網 ● 箱メガネ ● 水槽
30分	磯観察	<ul style="list-style-type: none"> ● 各担当のグループを磯へ誘導する。 ● グループで相談し、生き物がいそうなポイントへ移動する。 ● 網や箱メガネの正しい使い方を説明する。 ● 採取した生き物は水槽に入れるよう伝える。 ● 子供が採取した生き物の名前や生態を知りたい場合は、指導者が説明する。 ● 岩の下や隙間にも様々な生き物がいることを伝え、興味・関心を引き出す。 <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>POINT!</p> <p>★指導者は危険なものが落ちていないか、どこに生き物がいるのかなどを事前に確認しておきましょう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ● 大きな岩(高いところ)には上らないように注意しましょう。 ● 別のポイントへ移動する際、道具を忘れないよう声掛けをしましょう。 ● 生き物を入れる水槽には、少量の海水を入れるようにしましょう。 ● グループで協力して活動できるよう、様子を見ながら声掛けをしましょう。 ● 各グループに必ず指導者が1名つき、安全に活動できるよう努めましょう。 ● 陸上からの監視も行う、安全に努めましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 網(各自) ● 箱メガネ(グループに一つ) ● 水槽(グループに一つ) ● 陸上監視セット <ul style="list-style-type: none"> ・ AED ・ 雷アラート ・ 笛 ・ 赤旗 ・ 拡声器 ・ 真水 ・ 冷却パック ・ 避難経路地図

所要時間	内容	指導者の働きかけ	留意点	準備物
10分	生き物の紹介	<ul style="list-style-type: none"> ● グループごとに水槽を持って集合させる。 ● 採取した生き物を全体で共有する。 ● 紹介を終えたら、生き物は磯へ返す。 <p>POINT!</p> <p>★触ってもよい生き物であれば、子供たちに触ってみよう促すとよいでしょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 引き続き、グループで行動するよう声掛けをする。 ● できるだけ生き物を観察できるように時間を確保しましょう。 	
10分	片付け	<ul style="list-style-type: none"> ● 道具ごとに分けて片付けを指示する。 		
20分	着替え		<ul style="list-style-type: none"> ● シャワーを浴びる際は、シャワー室に指導者も入り、スムーズに交代できるようにするとよいでしょう。 ● 一人で着替えができない子供がいれば支援しましょう。 	
5分	発表	<ul style="list-style-type: none"> ● 各グループごとに、採取した生き物について、「魚」や「貝」といった種類を発表させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 発表が苦手な子供については、指導者から声掛けを行いましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 生き物カード
5分	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ● 磯観察の活動で学んだことについてまとめる。 ● 採取した生き物の名前やその生態を紹介する。 ● 室戸の海で観察できる他の生き物についても紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 活動をふりかえり、採取した生き物の名前や生態を知ることによって、これまで以上に海への関心を高め、興味を持てるようにしましょう。 	

③. 海の声キャンプ

国立若狭湾青少年自然の家

ねらい

- 若狭湾での海の活動を通して、保護者と子がそれぞれに自然体験活動を楽しむ。
- 保護者と子が同じ敷地で活動しながら少し離れて過ごすことで、子供の新たな姿を発見する機会にする。
- 海を身近に感じ、今後の自然体験活動への意欲を高める。

概要

1日目：親子別に海活動（子供：水泳・磯遊び、保護者：シーカヤック）
2日目：親子一緒に海活動（水泳・磯遊び、シーカヤックを選択）

- **内容** (子供)海を使った遊び
(保護者)シーカヤック、水泳
(親子)シーカヤック、水泳、磯観察
- **対象** 4歳児～小学2年生とその保護者
- **所要時間** 2時間半
- **人数** 20組40名程度

準備物

安全対策

- ライフジャケット
- スイミングキャップ
- 救命浮環
- レスキューチューブ
- 曳航用ロープ
- 無線機

活動用

- カヤック
- カヤックパドル
- カヤック用ジャケット
- 箱メガネ
- すくい網
- たも
- 透明の飼育ケース
- バケツ

子供たちの持ち物

- 水着
- 濡れてもよいシャツ・短パン（紫外線防止のためラッシュガード等が好ましい）
- 帽子
- かかとを固定できるサンダルや濡れてもよい運動靴、マリンシューズ
- お茶
- 着替え
- タオル

※（その他、宿泊に必要なものは省略）



フィールド 環境と 安全管理

活動場所 水泳エリア、タイドプール(磯)

子供、保護者への注意喚起

- ① ライフジャケットを着用すること(共通)
- ② こまめな水分補給を行うこと(共通)
- ③ 一人では行動しないこと(子供)
- ④ トイレに行く際は、スタッフに声をかける(共通)
- ⑤ トイレは、ボランティアスタッフなど大人と一緒にいくこと(子供)

予測されるリスクとその対応

CASE1. 溺水、落水及び行方不明

- ライフジャケットを着用する
- スイミングキャップを着用させ、その色でグループを識別する
- 救命浮環、レスキューチューブを準備する
- ボランティアスタッフと一緒に行動するよう伝える

CASE2. シーカヤックの航行不能

- 曳航用のロープを準備する
- 動力船による曳航の想定

CASE3. 熱中症

- 水筒を準備する
- 定期的な水分補給を促す

CASE4. 岩場での転倒

- ライフジャケットを着用する
- 擦り傷等の応急処置セットを携行する
- 岩場では走らない旨、注意喚起する

連携の ポイント

保護者との連携

- 安全指導については、保護者と一緒に聞いてもらい、ライフジャケットの着用の様子を見てもらう。
- 親子別のプログラムもあるため、万が一の時は、無線で連絡を取り、すぐに保護者に知らせることを伝えておく。

子供たちの 反応

- はじめは、浅瀬でウロウロする子供たちも、徐々に深いところの海で泳ごうとする姿が見られた。
- シーカヤックでは、子供たちは初めての経験であるにも関わらず、保護者に教えてもらいながら漕ぐ姿が見られた。
- 子供だけの活動を取り入れることで、子供同士が仲良く海で楽しんでいる様子が見られ、親は安心すると同時に、子供の新たな一面を発見していた。
- 1日目に親が実践したことを2日目に親が子供たちに教えるということで、親も一生懸命にシーカヤックに取り組むとともに、楽しく活動していた。

プログラムの流れ

海の声キャンプ

所要時間	内容	指導者の働きかけ	留意点	準備物
30分	導入 注意喚起 (セーフティーク)	<ul style="list-style-type: none"> ● 指導者やスタッフを紹介する。 ● 活動と実施場所について説明する。 ● グループに分かれて、顔合わせを行う。 ● 注意事項(約束ごと)を伝える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ライフジャケットを着用する ・一人で行動しない ・トイレの際は、必ず大人の人と一緒に行く <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>POINT!</p> <p>★ライフジャケットの着用を嫌がる子供がいるが、「溺れないため」「命を守るため」と必要であることを丁寧に説明し着用を促しましょう。</p> <p>★小学生は自分でライフジャケットを着れるが、園児は支援が必要でしょう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ● 指導者やスタッフの名前が分かるよう名札を付けておくといいでしょ。 ● どの活動をどのような場所や海域で実施するか説明し、安心感を持たせるといいでしょ。 ● 顔が分からなくても認識できるよう、スイミングキャップで色分けをするといいでしょ。 ● 注意喚起については、たくさん言い過ぎないように、ポイントを絞って説明しましょう。(2~3つくらい) ● ライフジャケットの着用では、実際に着用する様子を見せながら説明しましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ● スタッフ用名札 ● ライフジャケット ● スイミングキャップ (4色ほど)
15分	子供の活動 活動の準備 海へ移動	<p>子供</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ライフジャケットを着用させ、正しく着用できているか、体に合ったサイズかを指導者が確認する。 ● 着用後、親と離れ海へ移動する。 ● 実際に海が見えれば、どこで活動するのか、どこが危険なのか話をする。 <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>POINT!</p> <p>★親と離れることで泣いてしまう子供もいます。無理に離そうとせず、落ち着かせて徐々に、気持ちが海に向くようにするといいでしょ。</p> <p>★また、準備に時間をかけすぎると、親と離れる寂しさが強まることもあるので注意しましょう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ● グループや活動メンバーが分かるよう、グループ分けしてから準備を行うといいでしょ。 ● グループが識別できるよう、色分けしたスイミングキャップを準備するといいでしょ。 ● 海へ移動する際に、海を見渡せる高台などがあれば、そこから海を見たり、海からの風を肌で感じたりすることもできるでしょ。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ライフジャケット ● スイミングキャップ (4色ほど)

所要時間	内容	指導者の働きかけ	留意点	準備物
50分	<p>子供の活動</p> <p>海となかよし ～水泳エリアで遊ぼう～</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 準備運動をする。 ● ゆっくり海に入り、ライフジャケットの浮力を感じさせるよう声をかける。 (例) <ul style="list-style-type: none"> ・ ゆっくり水に浸かり、手をつないで輪になってみよう ・ 足をゆっくり輪の中心に向け、空を見上げてみよう ・ ラッコのように浮いてみよう <p>POINT!</p> <p>★深いところを怖がる子供もいます。ライフジャケットの浮力を感じると安心するようになります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 親しみやすい活動のネーミングを考えるとよいでしょう。 ● 子供たちにとっては、海の色々なものが遊びになるので、その子が興味を持った遊びを行えるようにするとよいでしょう。 ● 常に人数確認をしながら活動を行いましょう。そのためにもスイミングキャップで色分けしておくことと把握しやすくするでしょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 救命浮環 ● レスキューチューブ
15分	<p>休憩・水分補給</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 一度、完全に水から上げるようにし、体を休ませる。 ● 水分補給を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 人数確認とともに、水分補給をしているか確認しましょう。 	
45分	<p>子供の活動</p> <p>海となかよし ～海にはどんな生き物がすんでいるかな～</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 「どんな生き物がいるか探してみよう」と、活動に関心を持たせる。 ● 箱メガネを使うことも促す。 ● 「岩と岩の間に何がいるのかな」等、どのような場所を探したらよいかポイントを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 活動を行う範囲を伝え、危険な箇所の近くには指導者が立ち、安全に配慮しましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 救命浮環 ● 箱メガネ ● 透明飼育ケース ● たも ● すくい網
15分	<p>片付け</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● ライフジャケットの洗い方、干し方を子供たちに見せながら説明する。 ● 自分が使ったものは自分で片付けるよう声をかける。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 子供が洗いやすいよう、たらいの高さに配慮しましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ● たらい
5分	<p>保護者と合流</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 無事に海での活動ができたことを親に報告する。 ● 海の活動で、自分がどんなことに挑戦し、どんなことができたのか等を親に話してほしい旨を、子供たちに伝える。 ● 保護者にも、子供たちからの話を聞くよう伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 子供たちがチャレンジしたこと等を簡単に親へ説明し、活動の感想や様子を子供たちから詳しく聞くよう促しましょう。 	

所要時間	内容	指導者の働きかけ	留意点	準備物
翌日 90分	親子活動 海となかよし	<ul style="list-style-type: none"> ● ライフジャケットを着用させる。 ● 子供のライフジャケットが正しく着用できているか、親に確認を促す。 ● 「シーカヤック」と「水泳・磯観察」のグループに分かれ、それぞれの指導者やスタッフを紹介する。 <p>水泳・磯観察グループ</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 準備が整い次第、活動場所へ移動 ● 移動後、活動開始 <p>シーカヤックグループ</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 乗船の仕方を説明する。 ● 先頭と最後尾に指導者のカヤックを配置し、シーカヤックで移動する。 <p>POINT!</p> <p>★前日の【親の活動】において、実際にシーカヤックを体験してもらい、パドル操作など漕ぎ方をレクチャーしておきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 前日同様に、活動終了後、用具の片付けを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ライフジャケットの着用確認は、指導者も確認するようにしましょう。 ● 低年齢の子供たちがシーカヤックに乗船するため、海況が穏やかであることを条件としましょう。 ● 安全のため、園児が乗船する場合は、保護者だけでなくスタッフも一緒に乗船するようにしましょう。(園児、保護者、スタッフの3人) ● 熱中症予防のため、定期的に水分補給を促しましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 救命浮環 ● 箱メガネ ● バケツ ● 透明飼育ケース ● たも ● すくい網 ● カヤック ● パドル ● ローブ ● 水筒 ● 無線
10分	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ● 2日間を通しての感想を尋ねたり、指導者も、活動の感想を述べるなど、全体で振り返りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 子供たちには約束を守って活動できたこと(ライフジャケットをしっかり着用できたこと、勝手な行動をしなかったこと)を褒めましょう。また、今後、海活動を行う時に気を付けてほしいこと(一人で行かない、装備をしっかりすることなど)を伝えるようにしましょう。 ● 保護者にも、楽しかったことを話してもらうなど、全体で海活動を通して感じたことを共有し、今後の活動への意欲につなげるようにしましょう。 	

※本事業は1泊2日のキャンプ企画から「海」の活動のみを抜粋しています。そのため、本来、実施したテント泊や朝食づくりなどの活動は省略しています。

④. うみはともだち・トビーでチャレンジ

国立若狭湾青少年自然の家

ねらい

- 自然体験を通して、幼児に自然とふれあう楽しさや面白さを伝える。
- 若狭湾の海で遊ぶことで、海をより身近なものと感じられるようにする。
- 普段の保育に、海や自然とのふれあいをより取り入れるきっかけをつくる。

概要

若狭湾青少年自然の家の海を大きな自然の園庭と見立て、子供たちが自由な発想で思い思いに海とふれあうことができる「場」と「きっかけ」を提供する。

- **内容** 子供も大人も全員がライフジャケットを着用して、海で遊ぶ。タイドプールでは、岩の間や浅瀬にいる生き物探しをする。砂浜では、波の力を感じたり、砂の暖かさを感じる。
- **対象** 近隣の幼稚園、保育園、認定こども園の年長児
- **所要時間** 4時間半(昼食時間を含む)
- **人数** 60～80名程度(4～5園が同時に実施)



準備物

安全対策

- 子供用ライフジャケット
- スイミングキャップ
- 大人用ライフジャケット
- 無線機

活動用

- 箱メガネ
- バケツ
- たらい

子供たちの持ち物

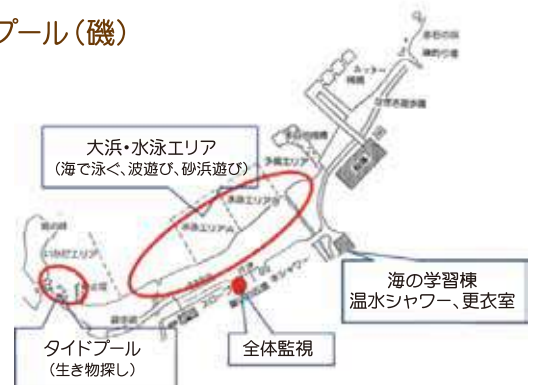
- 水着
- タオル
- サングラス
- 着替え
- 帽子
- バスタオル(更衣の際に体に巻く)
- マリンシューズ
- ビニール袋

フィールド環境と安全管理

活動場所 大浜・水泳エリア、タイドプール(磯)

子供たちへの注意喚起

- ① 海や自然でたくさん遊ぼう！
→楽しく思い切り遊ぶために動機付け
- ② 一人では行動しないこと
→海で見失う=命に関わることを伝える
- ③ ライフジャケットは外さないこと
→みんなの命を守る大切なもの



フィールド 環境と 安全管理

予測されるリスクとその対応

CASE1. 一人で活動場所を離れてしまったり、勝手にトイレに行ったりしてしまう。

- 離れている子がいたら、全体監視者が近くの職員に無線で連絡する。トイレについては、引率の先生や職員がまとめて連れていく。

CASE2. ライフジャケットを脱いでしまう子がいる。

- 安全のためにきちんと着用するよう、きちんと指導する。

CASE3. クラゲに刺される子がいる。

- 海水でよく洗い流すことを職員が理解しておく。

CASE4. 岩場で滑ってけがをしてしまう。

- 走ったり、誰かを押ししたりしないように指導する。

連携の ポイント

先生や保護者の海の活動に対する理解を得る

- 先生方が安心して活動してもらうために活動の様子を記録した映像等を準備する。
- 先生方に下見で子供たちの動線や活動場所を確認してもらうとともに、海の活動（シーカヤック等）も体験してもらう機会も設ける。
- 保護者向けのお便りの配布や参加に係る同意書、昼食代の回収に協力してもらう。

子供たちの海の活動に対するイメージを膨らませる

- 事前にライフジャケットを各園に配布し、脱ぎ着の練習をしたり、プールなどで使ってもらったりして、慣れてもらう。
- 事前に海の絵を描いてもらい、一人一人が海について考えたり、想像したりしてもらう時間を設ける。

職員と先生方の役割分担をする

- 子供たちの安全管理については、職員が主に担当し、子供たちの健康管理については、主に先生方に担当してもらうこととした。
- 複数園が同時に活動をするので、職員も先生も子供たちと一緒に遊びながら、複数の目で子供の活動を見守っていく。
- 活動時間や活動場所については、職員と先生が相談して決める。

子供たちの 反応

- 普段は消極的な子が海ではみんなにつられて遠くの方まで自ら泳ぐなど積極的な姿が見られるなど、表情がいきいきとしていた。どの子の表情もとても活気があり、心から楽しんでいるのがわかった。
- 海の色を”虹色”だと言ったり（グラデーションになっていた）、海中の色が緑色できれいだと感動したことを何度も教えてくれたり、心が動いている発言が多くあった。
- 海、砂浜、磯、全てに自ら進んで向かっていた。触れる・観察する・泳ぐなど全身がよく動いていた。
- 「一緒に行こう」「もっと遠くに行きたいからついてきて」など子供同士で助けあって楽しく活動しており、いつも以上に友達との会話が多かった。
- 水に顔をつけるのに抵抗があった子が、海の体験後には、プールで自ら顔をつけ泳げるようになった。

プログラムの流れ

うみはともだち・トビーでチャレンジ

所要時間	内容	指導者の働きかけ	留意点	準備物
	自然の家に到着	<ul style="list-style-type: none"> ● 笑顔で出迎え ● 室内の落ち着いた場所に集合 	<ul style="list-style-type: none"> ● 靴置き場や荷物置き場、集合場所なども各園の目印となるものを置いておくと動きやすくなります。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 各園の靴置き場や荷物置き場、集合場所の表示
5分	導入 注意喚起 (セーフティーク)	<ul style="list-style-type: none"> ● 職員やボランティアスタッフ紹介。 ● 今日の活動と留意点を伝える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 海や自然でたくさん遊びましょう! ・ 一人で行動しない ・ ライフジャケットは外さないこと <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>POINT!</p> <p>★ライフジャケットの着用は、その場で誰かをモデルにしてやってみると、着方やバックルをとめる位置、体に合わせるやり方などが伝わりやすくなります。</p> <p>★ライフジャケットを着ることができたら、必ず大人のチェックを受けることも伝えます。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ● 職員やボランティアスタッフの名前が分かるよう名札を付けておくとよいでしょう。 ● 子供たちが海で思いっきり遊べるように、職員や先生も一緒になって楽しめる雰囲気づくりをする。 ● 顔や名前が分からなくても認識できるよう、複数園での活動の場合は、スイミングキャップで色分けをするとよいでしょう。 ● 注意喚起については、子供たちにわかりやすいようになぜかも伝える。 <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 海も自然の家も広いし、みんなも知らないところだよね。 ・ ライフジャケットは命を守る大切なものだよ。 	
10分	活動の準備 海へ移動	<ul style="list-style-type: none"> ● ライフジャケットを着用させ、正しく着用できているか、体に合ったサイズかを職員やボランティアスタッフ、先生が確認する。 ● 全員で、浜へ移動し、準備体操。 ● サングルやマリンスーツは、どこに置いたら、波に流されないか子供たちと確認して、置き場所を決める。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 活動前に必ずトイレを済ませるように声をかけましょう。 ● 海へ移動する前に、集合写真を撮っておくとよいでしょう。活動後は、濡れているのですぐに着替えた方がよいです。 ● 裸足で活動ができるように、あらかじめ尖った漂流物などは取り除いておくことが望ましいです。 ● 足の裏から感じる砂の感触も海ならではの体験と言えるでしょう。 	

所要時間	内容	指導者の働きかけ	留意点	準備物
適宜	海の体験	<ul style="list-style-type: none"> ● 大浜・水泳エリアとタイドプールのどちらから活動するか、先生や子供たちと相談しながら決めます。 ● 一人ひとりのペースに合わせて、海との関わるができるように心がけましょう。全員が海に入らなくてもかまいません。 ● トイレに行きたい時は、職員や先生に声をかけるように伝えます。 <p>POINT!</p> <p>★体を動かしたり、泳ぐのが好きな子どもたちならば、大浜・水泳エリアから。生き物が好きな子どもたちならば、タイドプールから活動をはじめるとよいでしょう。</p> <p>大浜・水泳エリア</p> <ul style="list-style-type: none"> ● まずは、職員やボランティアスタッフが率先して、海へ入ってみましょう。 ● 飛び込み台を目標として、泳いで行こうと声をかけてみる。行くことができた子には、職員やボランティアスタッフ、先生が飛び込み台から飛び込んでみることで、自分も飛び込んでみようと思わせる。 ● 足の届かないところを怖がる子は、無理に引っ張って行ったりせず、様子を見ながら、声をかける。 ● 水泳エリアでも、箱メガネを使うことで、魚をみることができます。泳ぐことに慣れてきた頃に渡す。 ● 寒がる子には、砂をかけて体を温めたり、タオルを持って来て水気をふき取ったり頃合いを見て、全員で休憩をとることも大切です。水分補給をしたり、体を温めたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 海を眺めるのも一つの体験です。子供たちのペースで活動できるように柔軟に対応しましょう。 ● 海では子供たちを見失うことは、命にかかわる事態につながります。 <ul style="list-style-type: none"> ● 大人が先に入ることによって、子供たちは安心して海に入ることができるでしょう。一緒に遊びつつ、常に人数確認をしながら活動を行いましょう。 ● プールでは飛び込みが禁止されているところが多いので、こうした機会に飛び込むという体験もしてもらえるとよいでしょう。 ● 先生に普段の様子を聞くなどして、その子の気持ちに寄り添った支援をしましょう。 ● 休憩も大切な時間です。浜にいる子供たちが多くなって来たら、全員で休憩を取ったり、タイドプールへ移動するなどしましょう。 	<p>子供たち</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 水筒 ● タオル <ul style="list-style-type: none"> ● 箱メガネ <p>※ 準備物は必要最低限が望ましい。子供たちは自然物を工夫して遊びはじめます。</p>
40分	昼食	<p>POINT!</p> <p>★午後も海で活動する場合は、着替える必要がないので、弁当がおすすめです。</p>		

所要時間	内容	指導者の働きかけ	留意点	準備物
適宜	海の体験	<p>タイドプール</p> <ul style="list-style-type: none"> どこからどこまでが活動場所か、ブイを浮かべるなど範囲を説明しておく。 岩場での歩き方を説明する。 <ul style="list-style-type: none"> 姿勢を低くし、岩に手をつくなどして、バランスを取りながら歩くように伝える。 捕まえた生き物はみんなで観察できるように大きなたらいに入れて置いたり、様々な角度から見れるように透明なプラスチックの水槽に入れておくといでしょう。 <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> 海沿いにある石垣をよじ登って遊ぶ子供たちもいます。下が砂地でクッションにもなるので、安全です。 	<ul style="list-style-type: none"> エリアの端には、必ず大人が付きましよう。 歩き方は、職員が実際にやってみせると分かりやすいでしょう。 生き物は最後には、海に返してあげましよう。生き物を大切にす気持ちも育むことができます。 こちらが想像していないような遊びをすることも幼児ならではのことでしよ。 	<ul style="list-style-type: none"> 箱メガネ <p>※ 準備物は必要最低限が望ましい。子供たちは自然物を工夫して遊びはじめます。</p>
20分	シャワー・着替え	<ul style="list-style-type: none"> 水シャワーで体やライフジャケットについて海水や砂を洗い流し、ライフジャケットを集める。 水気をふき取ってから、室内に入り、研修室などで着替えをする。 着替え終わった子から、荷物をまとめ、トイレなどを済ませておく。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の水着などは、自分で管理するように声をかける。 先生方の着替えを交代で行ってもらったり、職員やボランティアスタッフが子供たちの様子を見たりする。 	
10分	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 子供たちに感想を聞いたり、楽しかったことを保護者や年下の子供たち、園にいる先生にぜひ話してもらいたいことを伝える。 体験したことを、絵に描いてもらうように伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> 帰りのバスの中や園でのふりかえりなどでの子供たちの様子や会話を、後日でのいので先生方から教えてもらおうと子供たちが体験を通して感じたことを知ることができるとしよ。絵を描いてもらうことは、体験のふりかえりにもなるので、効果的です。 	
	見送り	<ul style="list-style-type: none"> 笑顔で見送りましよう。また遊びに来てね！ 	<ul style="list-style-type: none"> また遊びに行ってみたいと思ってもらえるようにましよう。 	



⑤. うみとともにだち

国立大隅青少年自然の家

ねらい

- 未就学児が海でできる遊びを体験し、その楽しさを味わうことにより、海好きな子供を育てる。

概要

浅瀬で遊んだり、波に浮いたりして、海を楽しむ

- **内容** 浅瀬での水遊び
- **対象** 年長児(5~6歳)
- **所要時間** 2時間程度
- **人数** 20人程度

準備物

安全対策

- ライフジャケット
- マリンシューズ(緊急時用)
- レスキューチューブ
- 無線機
- 風速計
- 救急セット
- 給水用のポカリスエット、経口補水液
- 塩分補給用のおにぎり

活動用

- 箱メガネ
- 観察用の透明バケツ
- 補助教材(海の生き物の写真等)

子供たちの持ち物

- 濡れてもよい服装(長袖・長ズボン)
- スイミングキャップ
- サングル
- 着替え
- タオル
- 水泳バッグ
- 水筒

フィールド環境と安全管理

活動場所 海水浴場

子供たちへの注意喚起

- ① 指導者の指示に従うこと。
- ② グループ単位(子供と保育士、指導者等で構成)で行動すること。
- ③ 生き物を見つけても、指導者が「触っていいよ」と言うまでは触らないこと。
- ④ トイレに行きたいときは、保育士や指導者に伝えること。



フィールド 環境と 安全管理

予測されるリスクとその対応

CASE 1. 砂浜での怪我

- 活動場所をガラスの破片等がない砂浜とする。
- 前日までの天候により、砂浜が荒れていた場合や足を怪我した際に着用するマリンシューズを準備しておく。
- 長袖、長ズボン、手袋(軍手可)を着用させる。
- 転倒時の緩衝としてもライフジャケットを着用させる。
- ボランティアスタッフと一緒に行動するよう伝える。

CASE 2. 溺水及び行方不明

- 活動場所を遠浅の砂浜とする。
- ライフジャケットを着用させる。
- グループ単位で行動するよう伝える。
- 指導者や保育士等と連携し、活動範囲を監視できる体制をとる。(海と陸の両方から監視する。)

CASE 3. 熱中症

- 飲料水(ポカリスエットやお茶など)の準備と水分補給の声掛けを行う。
- 休憩時には水分と併せて塩分も補給させる。

連携の ポイント

指導者(講師)との連携

- 幼児を対象とした指導経験や海での活動経験のある専門的な講師に指導を依頼する。(近隣の教育委員会や観光課で自然体験の講師などを紹介してもらう)
- 海での活動経験のあるボランティアスタッフを確保する。

子供たちの 反応

- 活動の初めは海を怖がり、同じグループの友達や大人の手を離せない子供もいたが、いくつもの波に立ち止まり、海水が顔にかかりながら、ゆっくりと海の中を進んでいった。
- 「○○ちゃんと同じようにしてごらん」、「できるようになったね。大丈夫だよ」などの声かけを繰り返すうちに、恐怖心が少なくなっただけで楽しみながらより深い場所に進んで遊んでいた。
- 活動の後半に、レスキューチューブを使ったことで、つかまったり、引っ張られたり活動に追加の動きが加わり、海での遊び方、楽しみ方が増えた。
- レスキューチューブで順番に遊んでいたが、「もう1回したい」と積極的な面や、友達と一緒に道具を使って遊ぶ姿が見られた。
- レスキューチューブで遊んだ後は、たくさんの浮力を感じて安心したのか、1人で自由に浮いたり、深い場所で遊んでいた。
- 干潮が近づいてできた潮だまりでは、夢中でヤドカリを探して喜んでいた。

プログラムの流れ

うみとともだち

所要時間	内容	指導者の働きかけ	留意点	準備物
5分	導入	<ul style="list-style-type: none"> ● どんな活動をするのか、活動の流れを説明する。 ● スタッフ（指導者やボランティア）全員の自己紹介をし、子供たちとの関係を築く。 ● 海の生き物に関する写真等（補助教材）を使って、興味関心を持たせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 説明は長くならないよう、また、子供たちにも分かるよう簡潔に説明しましょう。 ● 屋外での説明となる場合は、熱中症に注視しましょう。 ● 説明の際は、子供たちの注意が散漫しないよう、海や砂浜から少し離れた日陰で行い、子供たちが海が気になったり、まぶしい方向を向かないように指導者の立ち位置に配慮しましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 補助教材
10分	注意喚起 (セーフティーク)	<ul style="list-style-type: none"> ● 子供たちをグループ分けし、活動中はこのグループで行動することを伝える。 ● 移動の際や砂浜では走らないよう伝える。 ● ライフジャケットを途中で外さないよう伝える。 ● トイレに行きたい場合は、必ず指導者や保育士に言うように伝える。 ● ライフジャケットの装着方法を説明し、その場で着用させる。その後は、指導者が確認する。 <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>POINT!</p> <ul style="list-style-type: none"> ★ ライフジャケットの着用を嫌がる子供がいるが、「溺れないため」、「命を守るため」と必要であることを丁寧に促しましょう。 ★ グループ担当以外の指導者は活動場所や移動先に危険なものが落ちていないか、先回りして確認しておきましょう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ● 子供の体に合ったライフジャケットを着用させましょう。 ● 保育士などの引率者が着用するライフジャケットについても、指導者が確認しましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ライフジャケット
5分	海へ移動	<ul style="list-style-type: none"> ● 指導者先導のもと、グループで移動する。 		

所要時間	内容	指導者の働きかけ	留意点	準備物
30分	海遊び	<ul style="list-style-type: none"> ● 各グループに分かれて、浅瀬から少しずつ深いところへ誘導する。 ● 裸足で砂浜を歩き、「水の中の砂は、柔らかくなったね」、「さらさらになったね」と足の裏を意識するよう声かけをする。 ● 波に当たって進みながら、「さっきより大きいね」、「波に押し返されるね」と波の大きさ・力を感じるように声かけをする。 ● 深い場所まで行けたら、ライフジャケットに体を委ねて浮いてみるよう声をかける。 <p>POINT!</p> <p>★深いところを怖がる子供もいます。足がつく場所でライフジャケットの浮力を感じると安心するようになります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 海に対して恐怖心が無い子供は、グループから離れてしまうことがあるので、監視するスタッフが注視するとよいでしょう。 ● 子供の様子や天候を考慮しながら、無理せず、早めに休憩をとることも想定しておきましょう。 	
10分	休憩	<ul style="list-style-type: none"> ● 海から上げて、日陰で休憩させる。 ● 水分及び塩分の補給を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 岩場でケガしたり、休憩中の事故にも注意しましょう。 ● 休憩中でも、全体指導、グループ担当、トイレ引率を分担しましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ポカリスエット ● お茶 ● おにぎり(梅)
10分	レスキューチューブを使った活動についての説明	<ul style="list-style-type: none"> ● レスキューチューブの正しい使い方を実際に見せて説明する。 ※本来の救護としての使い方 ● 今回の活動におけるレスキューチューブの使い方を説明する。 ※海遊びとしての使い方 		<ul style="list-style-type: none"> ● レスキューチューブ

所要時間	内容	指導者の働きかけ	留意点	準備物
20分	海遊び	<ul style="list-style-type: none"> レスキューチューブを使って遊ぶ。 <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>POINT!</p> <p>★活動時間が長くなると砂浜に上がりたがる子も出てきます。監視体制に余裕があれば、生き物観察をするのもよいでしょう。</p> <p>★触ってもよい生き物であれば、子供たちに触ってみよう促すとよいでしょう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 海に対する恐怖心を少なくし、楽しい印象となるよう「一緒にやろう」、「できるかな」とチャレンジを求めたり、「やった、できるようになったね」と成長に気づく声掛けをするとよいでしょう。 潮の干満時間や風の強さに注意しましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> レスキューチューブ
10分	片付け まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 終了後、怪我や体調不良がないか確認する。 ライフジャケットを回収し、シャワーや着替えを行う。 活動をふり返って、気づいたことや成長を全員で確認する。 <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> 海で見つけたこと 海でできるようになったこと 海の変化(潮の干満) みんなで海で楽しく遊べたこと 海が近くにあって、身近なこと 家族でまた海に遊びに来てほしいこと 	<ul style="list-style-type: none"> 子供たちの忘れ物がないうよう注意しましょう。 	

⑥. ちびっ子大集合

国立沖縄青少年交流の家

ねらい

- 親子で渡嘉敷島の海と直接ふれあうプログラムをとおして、海と親しむ楽しさや関心を育む機会とする。

概要

砂遊びや波打ち際や浅い場所で水遊びをする。
大型カヌーやオープンカヤックなどに乗り、箱めがねを用いて水中観察をする。

- **内容** 水遊び、水中観察、カヌー・カヤックを用いた海洋スポーツ体験
- **対象** 年長児(5~6歳)とその保護者(2名1組)
- **所要時間** 4時間程度
- **人数** 30人程度

準備物

安全対策

- ライフジャケット(子供用、大人用)
- ウェットスーツ(子供用、大人用)
- レスキューチューブ
- 救急セット
- AED
- お茶(冷・温)
- 塩分補給飴

活動用

- 箱めがね
- 大型カヌー
- オープンカヤック
- スーパーフロート

子供たちの持ち物

- 着替え
- 水着(濡れてもよい服)
- 帽子
- サングラス
- タオル
- マイカップ(水筒可)
- カップ等の雨具
- 日焼け止め

※(その他、宿泊に必要なものは省略)



活動場所

海、砂浜

子供たちへの注意喚起

- ① 保護者のそばから離れないこと
- ② ライフジャケットを正しく着用すること
- ③ 使用する道具は大切に扱うこと
- ④ 自分勝手に沖へ行かないこと



親への注意喚起

- ① 子供のそばから離れないこと
- ② ライフジャケットを正しく装着し、子供が正しく装着できているか確認すること
- ③ 子供が怖がるようであれば無理をさせないこと(保護者も同様)

予測されるリスクとその対応

CASE 1. 溺水及び行方不明

- ライフジャケットを着用させる
- 親と子供の二人組でバディを組ませる
- 指導者・海上監視員による監視の徹底



CASE 2. 砂浜での枝、貝殻などによる怪我

- 移動の際はマリンシューズ等を履いて足裏を保護する

CASE 3. 熱中症

- 水分補給の時間を設定し、声掛けを行う

CASE 4. 低体温症

- ウェットスーツを着用させる
- ヒーターの準備
※電源の確保ができる場合
- 温かい飲料を準備する

CASE 5. 日焼けによる火傷

- ラッシュガードを着用させ、肌の露出を避ける
- ラッシュガードやウェットスーツから露出する顔などは日焼け止めを塗る



CASE 6. 危険な生き物

- ラッシュガードやウェットスーツを着用させ、肌の露出を避ける

連携の ポイント

保護者との連携

- 親子一緒にオリエンテーションを聞いてもらい、親子での認識を深め、ライフジャケットの正しい着用方法や海洋スポーツ体験器材の使用法の注意点を親子で確認する。

講師との連携

- 安全管理の講義と海でのプログラムが関連するように、事前に打ち合わせを行う。

子供の様子

- 注意事項をしっかりと聴くことができ、活動中も互いに教え合いながら、守る姿がみられた。
- 水を怖がる子供は少なく、怖がっていた子供も他の参加者が遊んでいる姿を見て、徐々に自ら進んで海に入るようになった。
- 水中の魚を見つけると驚きや喜びの歓声が上がった。
- ライフジャケットを着用してうまく浮くことができるようになると、お互いで数を数えながら浮いている時間を競い合う姿が見られた。
- 初日はライフジャケットの着用に時間を費やしたり、保護者の助けを借りる場面が見られたが、2日目には自ら着用しようとする姿が見られた。
- ヤドカリや魚等、生き物の観察に夢中な子供が多く見られた。
- プログラム終わりには、また海に遊びに来てヤドカリや魚を観察したいと話していた。
- 海洋スポーツ体験では、沖の珊瑚礁や色とりどりの熱帯魚を観察することができ、珍しい魚が観察できた時には、歓声が上がった。

保護者の様子

- 安全講習の後の海のプログラムでは、安全講習で学んだライフジャケットの着用の重要性を子供に伝えながら、海でのプログラムを楽しむ様子が見られた。

子供たちの 反応

プログラムの流れ

ちびっ子大集合

所要時間	内容	指導者の働きかけ	留意点	準備物
30分	導入 注意喚起 (セーフティーク)	<ul style="list-style-type: none"> ● スタッフ紹介をする。 ● 子供たちに興味を持ってもらうために質問を交えながらオリエンテーションを行う。 <p>約束事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親のそばから離れない ・ライフジャケットを着用する ・道具は大切に扱う ・自分勝手に沖へ行かない <ul style="list-style-type: none"> ● 使用器材(大型カヌー、オープンカヤック、ライフジャケット等)の使用方法や注意点などを簡潔に伝える。 ● ライフジャケットの装着などは実物を見せながら説明する。 ● 説明は日陰で行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 子供たちに親しみやすいようニックネームなどがいいでしょう。 ● 約束事項はポイントを絞って説明しましょう。 ● 説明は長くならないよう、簡潔に伝えましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ライフジャケット ● ウェットスーツ ● 大型カヌー ● オープンカヤック ● スーパーフロート ● 箱めがね
45分	水中観察①	<ul style="list-style-type: none"> ● 再度、セーフティークの内容について確認し、ライフジャケットを正しく装着しているか親子で確認させる。 ● 砂浜へ移動する。 ● 準備体操を行う。 ● ライフジャケットの浮力を利用して水面に浮いてみる。 ● 水面にうつ伏せに浮きながら箱めがねを使って水中を観察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ライフジャケットの着用に不備がないか確認し、あれば直しましょう。 ● 移動の際、サンゴや木の枝等で怪我をしないようマリンシューズ等を履いて移動しましょう。(海へは裸足で入りませう。) ● だるま浮きや保護者の支え等から浮くことに徐々に慣れていくといいでしょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ライフジャケット ● ウェットスーツ ● 箱めがね ● レスキューチューブ(監視のスタッフ用)

所要時間	内容	指導者の働きかけ	留意点	準備物
45分	水中観察①	<p>POINT!</p> <p>★海を怖がる子供には、波打ち際から徐々に海へ入り、無理をさせないようにしましょう。</p> <p>★適宜、声掛けを行い、海に興味を示したら波打ち際で水かけ等から慣れさせ、ライフジャケットは浮くものなので安心できる旨を伝えましょう。</p> <p>(声掛けの例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達と海で遊んでみよう ・ヤドカリを探してみよう ・水のかけ合いっこをしよう <p>★親に支えてもらいながら浮く経験を促してみましよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 保護者の支えがあると観察しやすいでしょう。 ● 足のつく波打ち際で観察することもできるでしょう。 ● こまめに(時間間隔を決める等して)参加者の人数確認を行いましよう。 ● 事前に浮きブイを設置したり、沖の方から海上監視スタッフを配置し活動エリアを決めておきましょう。 ● 監視員の配置は陸上監視、海上監視(沖からの監視)、プログラムの進行兼監視1人を配置しましょう。(参加人数によって監視の人数は調整が必要です) 	
15分	休憩	<ul style="list-style-type: none"> ● 海からあげて、体を休ませる。 ● 水分・塩分を補給する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 日陰で休憩を取りましよう。 ● 人数確認を行いましよう。 ● 全員がしっかり水分を取ったことを確認しましょう。声かけで水分補給を促すのもいいでしょう。 	
60分	<p>親プログラム</p> <p>安全講習会 「低年齢期における海洋体験と水辺の安全管理」</p> <p>子供プログラム</p> <p>お絵かき</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 講師による講義 <ul style="list-style-type: none"> ・自然体験が注目されている背景と教育効果 ・なぜ自然体験活動に教育効果が期待されるのか ・水辺の安全管理 ・水辺の事故防止対策 <p>POINT!</p> <p>★水中観察①で行ったことを思い出せるような声かけや問いかけをしましよう。</p> <p>★時間を区切り、休憩を入れましよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 講義内容と海のプログラムの内容が関連するよう事前に打ち合わせを行うとよいでしょう。 ● 事前に描いてもらった絵と水中観察①を終えて描いた絵を比較し海に対する心境やとらえ方の変化を比較しましよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ● A3画用紙 ● クレヨン

所要時間	内容	指導者の働きかけ	留意点	準備物
45分	水中観察②	<ul style="list-style-type: none"> ● 砂浜へ移動する。 ● 準備体操を行う。 ● ライフジャケットを着用せずに水面に浮いてみる。 ● ライフジャケットを着用せずに水面に浮きながら箱めがねを使って水中を観察する。 <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>POINT!</p> <p>★ライフジャケットを着用しないことに対して怖がる子に対しては、ライフジャケットを着用させましょう。</p> <p>★適宜、声掛けを行い、海に興味を示したら波打ち際で水かけ等から慣れさせ、ライフジャケットは浮くものなので安心できる旨を伝えましょう。</p> <p>(声掛けの例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達と海で遊んでみよう ・ヤドカリを探してみよう ・水のかげ合いっこをしよう <p>★親に支えてもらいながら浮く経験を促してみよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ● 保護者の支えがあると観察しやすいでしょう。 ● 足のつく波打ち際で観察することもできるでしょう。 ● こまめに(時間間隔を決める等して)参加者の人数確認を行いましょう。 ● 事前に浮きブイを設置したり、沖の方から海上監視スタッフを配置し活動エリアを決めておきましょう。 ● 監視員の配置は陸上監視、海上監視(沖からの監視)、プログラムの進行兼監視1人を配置しましょう。(参加人数によって監視の人数は調整が必要です) 	<ul style="list-style-type: none"> ● ウェットスーツ ● 箱めがね ● ライフジャケット(必要な場合)

所要時間	内容	指導者の働きかけ	留意点	準備物
60分	親子で 海洋体験	<ul style="list-style-type: none"> ● 器材の持ち運びの際に、周りの人に当たらないよう気を付ける。 ● 器材は正しい使い方、乗り方をする。 (例) <ul style="list-style-type: none"> ・持ち運びの際は地面に引きずらない ・他の参加者と乗り物がぶつからないよう気をつける ・器材の上で立ったり危険な行為をしない ・使用後は、海水と砂を水で洗い流し、元の場所へ戻す ・エリア(フイを設置)から出ないように行動する <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>POINT!</p> <ul style="list-style-type: none"> ★カヌーやオープンカヤックに乗っている参加者に対して、沖にも魚や珊瑚礁がいることを伝えましょう。 ★怖がる子供に対して、 <ul style="list-style-type: none"> ・無理をさせずに浅瀬から慣れさせ、徐々に沖にでましょう。 ・浅瀬ではなかなか観察できない生き物がいる声かけをしましょう。 ・箱めがねを使用しましょう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ● いくつかのグループに分けて活動しましょう。 ● 注意事項(正しい使い方、乗り方)の範囲内で親子で自由に海を楽しみましょう ● 波打ち際での、器材の乗降は素早く行いましょう。(波の高い場合は、器材で怪我をする可能性があります。) ● エリア外に出ている参加者がいないか注意して監視しましょう。 ● 天候が不安定な時は気象注意報・警報をこまめに確認しましょう。 ● 低年齢対象のプログラムなので、海の状態が穏やかであることが条件になります。 ● 活動を30分で区切り、休憩を入れましょう。 ● 活動中もこまめに人数確認を行いましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 大型カヌー ● オープンカヤック ● スーパーフロート ● ライフジャケット ● ウェットスーツ ● 箱めがね
10分	エンディング	<ul style="list-style-type: none"> ● 本プログラムの終わりの会を行う。 ● 担当職員から、本プログラムについてどうだったかを問いかける。 <ul style="list-style-type: none"> ・渡嘉敷島の海はどうでしたか等 ● アンケートの記入 		

⑦. 海辺の遠足

国立江田島青少年交流の家

ねらい

- 海辺での活動を通して、江田島の海に対して親しみを深める。

概要

浜辺で砂遊びをする。
漂流物を探して遊ぶ。

- **内容** 砂の造形、ビーチコーミング等の自由遊び
- **対象** 年長児童(5~6歳)
- **所要時間** 3時間程度(お弁当の時間を含む)
- **人数** 30人程度

準備物

安全対策

- ライフジャケット
- 幼児用軍手
- 救急セット
- 毛布



活動用

- 砂遊びセット
- 洗い桶(たらい)
- 絵本(雨天プログラム用/海や海の生き物の絵本)

その他

- ブルーシート
- 手洗い石鹸
- 新聞紙

子供たちの持ち物

- 汚れたり、濡れたりしてもよい服
- 長靴
- 帽子
- 着替え
- タオル
- ビニール袋
- お弁当
- 水筒
- 敷物

フィールド環境と安全管理

活動場所 砂浜

子供たちへの注意喚起

- ① グループで行動すること
- ② 活動及び移動の際は走らず、歩くこと
- ③ 海に入る服装ではないため、服や体を濡らさないようにすること

フィールド 環境と 安全管理

予測されるリスクとその対応

CASE1. 転倒による怪我

- 活動や移動では、走らず歩くように説明する
- 転倒時の緩衝として、ライフジャケットを着用させる

CASE2. ガラス等の漂流物による怪我

- 軍手や長靴を着用させる

CASE3. 溺水及び行方不明

- ライフジャケットを着用させる
- グループで行動させる

CASE4. 低体温症

- 服や体を濡らさないよう説明する
- 寒さや体の冷えに備え、毛布を準備しておく



連携の ポイント

幼稚園教諭(認定こども園職員)等との連携

- 当日の細案(進行細案、指導細案など)による役割分担の確認
- 安全対策の共有
- 配慮の必要な子供の把握

子供たちの 反応

- 当初、浜辺には子供の興味を惹きつけるようなものは少なく、砂遊びが中心になると思っていたが、子供たちは多様な遊びを生み出していた。
- 昼食後、干満による潮位の変化に驚いていた。「(「砂場が大きくなってる!」)
- ハマダンゴムシを見つけ、いつもと違うダンゴムシがいることに驚いていた。
- いつも落ち着いている子も大きな声を出して砂浜を走り回ったりしている姿を見ることができた。
- 今回のような海での遊び体験は、子供たちにとって初めての体験だった。全員がこども園での行動や表情が全く違っていた。
- 「何をしたらいいの?」と遊びを見つけれない様子も最初の頃は見られた。
- 魚や貝殻、砂浜にとっても興味関心を示しており、瞳は「キラキラ」輝いていた。いつもは口数が少ない子が、沢山の発言をしたことにも驚いた。
- 「海」という園とは違う環境の中で、海の音を聞いたり、波を感じたり、海の干満潮を知る経験、砂浜で貝殻や漂流物を使って遊んだりなど、海を近くに感じる事ができた。
- グループ活動では普段あまり関わりが見られない子同士の関わりが見れた。

プログラムの流れ

海辺の遠足

所要時間	内容	指導者の働きかけ	留意点	準備物
	開始前の事前確認	<ul style="list-style-type: none"> ● 服装(帽子、長靴)の確認をする。 ● トイレを済ませることを促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 事前に危険な漂流物がないか確認しておきましょう。 	
5分	導入	<ul style="list-style-type: none"> ● 指導者、スタッフの自己紹介をする。 ● 活動の内容や流れについて説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 子供たちが説明に集中できるよう、子供たちの視界に海が入らないよう立ち位置に配慮しましょう。 	
5分	注意喚起 (セーフティーク)	<ul style="list-style-type: none"> ● 活動中の約束について説明する。 <ul style="list-style-type: none"> ・グループで行動すること(一人で行動しないこと) ・走らず、歩くこと ・服や体を濡らさない <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>POINT!</p> <p>★浜辺にはガラス片等、鋭利な物が落ちている可能性があります。子供たちには実物を見せて注意を促しましょう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ● セーフティークでは、理由も併せて話すようにしましょう。 ● 安全意識を高めるために、説明後に3つの約束を再度確認してから活動するとよいでしょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ライフジャケット ● 幼児用軍手
40分	浜辺遊び (前半)	<ul style="list-style-type: none"> ● 砂遊び道具を貸し出す。 ● 6人程度のグループで活動させる。 ● 安全面に留意しながら、子供たちの自由な遊びを見守る。 ● 遊びのバリエーションのヒントとなるように、指導者も一緒に遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 波打ち際で遊ぶ際は、服や体が濡れないよう声をかけましょう。 ● 天候や子供の体調を考慮して、必要に応じて活動時間を短縮することも想定しておきましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 砂遊び道具一式



所要時間	内容	指導者の働きかけ	留意点	準備物
60分	お弁当・休憩	<ul style="list-style-type: none"> ● 道具が波にさらわれない場所に移す。 ● 午前中の活動の感想や午後の活動でやってみたいことなどを聞く。 ● お弁当の前に、手洗いをさせる。 <p>POINT!</p> <p>★休憩時間を使って、海に関連する絵本の読み聞かせを行うと、子供にとっての午後の活動のヒントになるでしょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 風でお弁当のごみなどが飛ばされないよう注意しましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 手洗い石鹸
40分	浜辺遊び(後半)	<ul style="list-style-type: none"> ● 前半の活動の続きを行う。 <p>POINT!</p> <p>★行動範囲が広がることで波打ち際に近づきすぎることがあります。</p> <p>★より大勢で大きな造形物をつくる遊びにも発展していきます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 慣れてくると行動範囲が広がったり、遊び方が大胆になってくることを理解し、必要に応じて指導者の配置を変えましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 砂遊び道具一式
10分	片付け	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分で道具を洗い、返却させる。 ● ライフジャケット、軍手を外し、必要に応じて着替えをさせる。 		<ul style="list-style-type: none"> ● 洗い桶
10分	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ● 子供たちにインタビューをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・感想や何をして遊んだのか 等 ● 指導者からのメッセージを伝える。 <ul style="list-style-type: none"> ・また遊びにきてね 等 	<ul style="list-style-type: none"> ● 子供たちの感想に共感しながらインタビューするとよいでしょう。 ● 他の子供たちにも聞こえるよう、指導者は子供が発言したことをオウム返しするように紹介するとよいでしょう。 	

5. 海の体験活動における安全管理

NPO法人海に学ぶ体験活動協議会 (CNAC)
代表理事 三好利和氏

体験活動の対象者が幼児に限らず、海の体験活動はリスクが大きいと考えられ、活動フィールドとして、避けられている傾向が少なからずあります。

しかし、しっかりした安全管理を実践すれば、「海」は参加者にとって、大きな影響を与えてくれるフィールドです。事故によるけが人や病人を出すことなく、楽しく安全な海の体験活動の実践のためのリスクマネジメント(安全管理)が重要です。

リスクマネジメントとは

安全な活動には、リスク(危険)を排除することが必要です。したがって、安全管理は、危険を管理することが必要になり、現在ではリスクマネジメントという言葉が利用されています。リスクとは一般的に、私たちに危害や損害など、好ましくない結果を引き起こすものです。身体的だけでなく、心理的なものをありますし、経済的な事も含まれています。

リスクマネジメントとは、実際に好ましくない結果を起こさないためのマネジメント(管理)をすることです。自然体験活動ではリスクをゼロにすることは活動の中止につながることもありますから、リスクがあっても、活動できる状況や可能な運営方法を検討し、実践することがマネジメント(準備、対策、対応)ということになります。

ただし、自然環境の中での活動の場合は、最終的に中止をするというマネジメントもあることは忘れないで下さい。まず、必要な事は、リスクを知ること、予測すること、予知することが必要です。リスクがわからなければ、マネジメントすることはできないのです。次にそのリスクを評価し、どのようなマネジメントをするのか、考えなければなりません。そして、中止というマネジメントとともに、万一、好ましくない結果が発生、いわゆる事故が発生した場合の対応を考えることもマネジメントに含まれることを認識しておいてください。

リスクの要因を知ろう

リスクの要因として、3つに分けることができます。人的要因と物的要因と環境要因です。

1. 人的要因

① 体力・運動能力・理解力・集中力・感情・意識(モチベーション)

人とは参加者だけではなく、指導者も含まれます。年齢や男女による差が大きいです。幼児が対象の場合は、様々な力が十分に発達していないため、深く考慮することが求められます。さらに最近では軽度の発達障害をもつ子供が増える傾向にあることも理解する必要があります。

また、特に指導者に見られますが、体調や疲労度による能力の低下があります。

② 指導者の人数と配置

運営面における人的要因としては、運営に必要な適切な人数と配置があります。幼児対象の場合はより多くの運営人員を必要とする場合が多くあります。

③ 一般常識やマナー・社会的なルール

生活環境、生活習慣や家族構成の変化から各自が持つ理解度が違うことが目立ち、説明の内容や確認の必要性が変わってきています。

2. 物的要因

① 服装・持ち物・用具・備品・施設の設備

体験活動では、その活動内容にふさわしい服装や持ち物により、リスクが低減されることがあります。海辺での活動では特に水にぬれてもよい靴が必要です。サンダルなどでの活動は大きなリスクを伴います。また、同じ用具でも大人用のものを子供が使用する場合にはリスクが増加することがあるので気をつけましょう。海の活動では、必要に応じてフローティングベストなどの備品が必要な場合もあり、港での活動の場合は特殊な設備もあります。

② 交通手段

活動場所までの移動を伴う場合は、活動前後の移動の車やバスにおいてのリスクがあることを見逃さないで下さい。

3. 環境要因

① 天候

体験活動は屋外での活動が多いので、常に天候を確認する必要があります。現在では、スマートフォンによるリアルタイムでの情報が収集できることをうまく活用することが必要です。特に急激な雨や雷の接近には有効になっています。

② フィールド

海の体験活動では、エリア別にすると、陸地、水際、海中の3つのエリアがあります。それぞれにリスクが違ってきます。場合によっては海中よりも水際の方がリスクが高いと考えられることもあります。幼児期の活動では一番リスクが少ない陸地のフィールド、砂浜や磯場といわれる水に入らないエリアの活動を実施することもリスクの少ない場所での活動として、利用しやすいと考えられます。

海の特徴として、水際の要因では潮の満ち引きにより海面の高さが大きく変わることや打ち寄せる波が常に同じではなく、ある間隔で大きな波が発生することもあること、海中の要因では、岸から沖へ流れる離岸流という流れが部分的に発生すること、長く海中にいると暑い夏でも低体温症になるリスクがあることがあげられます。また、水際のエリアも砂浜、干潟、岩場、サンゴ礁、港などの環境の違うフィールドがあるので、それぞれの環境でのリスクを考える必要があります。




③ 危険な生き物

海の活動では陸上ではない危険な生物がいます。事前に確認しておく必要があります。よく見られるものを紹介します。(次頁参照)







④ 法やルールを守る

海辺の活動では、その場所を管轄している所があり、むやみに利用できない場所があるので注意し、地元の方に事前に確認をする必要があります。(海岸は漁協の管理している場合が多いようです。)

捕まえると「咬む、刺す、はさむ」危険な生き物

イモガイ	● 毒のあるハリで刺す巻貝です。	
ヒョウモンダコ	● 小型の美しいタコですが、咬まれると毒をもっています。	
カニ	● いろいろな種類がありますが、ハサミで挟まれてケガをします。 ● 毒はありません。	

触ると「怪我をする」危険な生き物

フジツボ	● 殻のふちが鋭く硬く、岩場に多く群生していて、踏んだり、ぶつかると深い傷をおいます。	
ガンガゼ ※1	● 長く黒いトゲをもつウニ。 ● トゲが細くてもろくすぐ折れ、折れたトゲが皮膚に残ります。	
ハオコゼ ※1	● 潮が引いた磯場の海藻の中にある小さいカサゴ。 ● 背びれに毒をもっています。	
ゴンズイ ※1	● 8本ひげのナマズ型の魚。ゴンズイ玉という群れを作り、背びれと胸びれに毒のあるトゲをもっています。	
アカエイ ※1	● 広く生息しており、尾びれの付け根に有毒のトゲをもっています。	
カツオノエボシ ※2	● 傘が浮き袋になり長い触手を持ち、触手に刺胞があり、有毒です。 ● 死骸に触っても刺されるので注意が必要です。	

イラスト/友永たろ

処置方法

※1 ガンガゼ、ハオコゼ、ゴンズイ、アカエイは刺された所を40～50度のお湯に1時間くらいつけておくか、医療機関で受診して下さい。

※2 カツオノエボシは海水で触れた所をきれいに洗い流します。真水は厳禁です。医療機関に連れて行って下さい。

マニュアルをつくろう

安全な活動を実施するには、いろいろなマニュアル(書類)を作る必要があります。

書類をつくることは、運営側の人間同士の理解を共有することや運営側と参加者の理解を共有することにより、様々なリスクを低減することができます。また文字化することにより、次回の活動に継続性を持たせることもできます。

最初にマニュアルをつくることは難しいですが、一度、フォーマットができてしまえば、継続して利用することができ、習慣化につながり、よりリスクへの対応がしやすくなると考えられます。

マニュアル(書類)の内容案

1. 企画の段階

- 企画書 ● 実施までのスケジュール ● 実施要項 ● 保険の契約
 - 担当者の研修計画 ● 下見計画 ● 緊急時の対応マニュアル
- ※ 募集をともなう活動の場合は、パンフレットや申込関係の書類づくり、説明会の案内も必要

2. 活動中

- 運営マニュアル(進行表や役割分担、配置表など)
- 記録方法の確認

3. 活動後

- 活動報告書
- ヒヤリハットの記録と分析

安全な活動のために！弁護士からの提言

NPO法人自然体験活動推進協議会
顧問弁護士 早川 修氏(早川総合法律事務所 弁護士)

1. 子供を見失わないこと

体験活動中の死亡事故は、指導者が子供を見失うことにより生じることが最も多い。

2. そのためには注意の与え方と監視体制が重要

子供の数に応じた指導者の数をそろえるだけでなく、指導者間において、役割分担を定めることが重要。

その他、参考資料

- 体験・遊びナビゲーター2
<http://www.niye.go.jp/taikenasobi/nabi2.html>
- 「しぜんであそぶ」まるわかりガイドブック ～「場」と「きっかけ」から身に付く36の動き～

6.プログラムの評価方法の検討

海の体験活動には、どのような効果があるのでしょうか。

S.E.Aプロジェクトでは、「海」と直接ふれあえる機会の提供を通して、海に親しむ楽しさや「海」に対する関心を育むことを目的としています。

そこで、「8歳までの海遊教室」の参加者のみなさんに協力してもらって調査・研究を行い、様々な視点からプログラムの効果を検討しました。

1. 質問紙調査

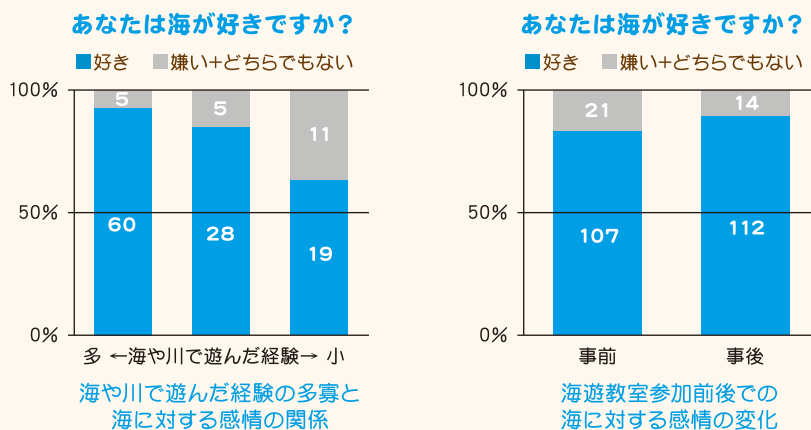
平成29年度に「8歳までの海遊教室」に参加した幼児・児童を対象に、「これまでの自然体験」と「海に対する感情」について質問紙調査を行いました。

130名分の回答をもとに、「海や川での経験」と「海に対する感情(事前)」の関係と参加前後での「海に対する感情」の変化を分析したところ、2つのことが分かりました。

- ①海や川で遊んだ経験が多いほど、「海がすき」「海であそびたい」といったポジティブな感情を持っている。
- ②参加前後では、海に対する感情に有意な変化は見られない。

この2つの結果から、幼児・児童のこころの内面で何が起きているのか推測すると、海で遊んだ体験はすぐに内面化され、言葉として表現されるのではなく、回数を重ねることで「海が好き」といった感情が生まれてくるのではないのでしょうか。

一方で、参加直前まで「うみがきらい」といって浮かぬ顔をしていた参加者が、「8歳までの海遊教室」からの帰りのバスに乗り込む際に「うみ、たのしかったよ」と発言したという事例も報告されています。質問紙で見られる変化だけでなく、個々の事例を捉えていくことも重要です。



調査の概要

- 調査対象** 国立淡路青少年交流の家、国立江田島青少年交流の家、国立若狭湾青少年自然の家が平成29年度に実施した、「8歳までの海遊教室」へ参加した幼児・児童160名
- 調査方法** 「これまでの自然体験」と「海に対する感情」について質問紙を用いた調査を行った。回答方法は、対象者に対して保護者が聞き取って記入することとした。全参加者の家庭に質問紙を配布し、156名分を回収した。そのうちデータ欠損を除いた130名分を分析に使用した。「海や川での体験」と「海に対する感情(事前)」の関係と、参加前後での「海に対する感情」の変化を分析した。
- 主な結果** ①海や川で遊んだ経験が多い子供ほど「海がすき」「海であそびたい」といった感情を持っている割合が5%水準で有意に高かった。②参加前後では、海に対する感情に有意な変化は見られなかった。

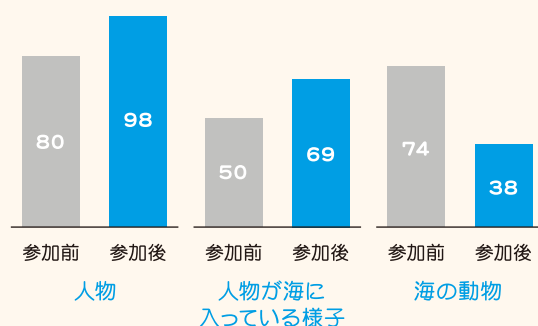
2. 絵の変化

平成28年度に国立若狭湾青少年自然の家が行った「うみはともだち」に参加した幼児に、参加前と参加後それぞれ「海」をテーマにした自由画を描いてもらいました。

107名分の幼児の自由画を参加前後で比較したところ、人物を描いたり、人物が海に入っているようすを描いたりした絵が有意に増え、海の動物が描かれた絵は有意に減りました。

「うみはともだち」では海に入り、自分の体で浮力や波の力を体験します。そこでは、図鑑や絵本、テレビなど、幼児が日常生活で見聞きする情報とは全く異なる「本物の海」を体感することになります。絵の変化からは、海でのあそびを通して、体験に基づいた認識へと変化したことが伺えます。

「うみはともだち」参加前後の絵における
各要素の描画人数



調査の概要

調査対象 国立若狭湾青少年自然の家が平成28年度に実施した「うみはともだち」へ参加した5歳児107名

調査方法 参加前後に、海をテーマに自由画を描いてもらった。それぞれの絵について「人物」や「動物」といった要素の描画の有無を確認した。各要素を描いた人数について、参加前後を分けて集計し、参加前後の変化を分析した。

主な結果 「人物」や「人物が海に入っているようす」を描いた者は参加後に信頼度95%で有意に増加した。「海の動物」や「海に関係する人工物」を描いた者は参加後に信頼度95%で有意に減少した。

研究協力者：島田由紀子氏（和洋女子大学教授・当時）



ちなみに、他の活動を実施した施設でも、参加者に絵を描いてもらう試みを行っています。「うみはともだち」の例では、人物を描いた絵が増え、動物を描いた絵が減ったことを示しましたが、活動環境や内容によっては違った変化がみられるようです。

例えば、国立室戸青少年自然の家では磯を使って生き物を探す・生き物に触れる活動を行いました。参加前の絵にはあまり人物の描画が見られず、動物を中心に描画されていましたが、参加後の絵には、動物に加えて人物の描画が多くみられます。

このことから、海の多様な環境を活用したり、幅広い内容の活動を行ったりすることで、子供たちが多様な海の姿を認識することにつながるのではないかと考えられます。



7.おわりに

海は命の源、母なる海、そして育みの場…。

人は何歳になっても海にあこがれ、海に癒され、ふと海に足を運んでしまう…。

多分誰もが海の原風景を思い浮かべることができるに違いない…。

しかし一方で、そんな自然豊かな海から若者を中心に海離れが進行している…。

このS.E.Aプロジェクトは、そのような若者の海離れが進む中、低年齢期の子供たちが「遊び」を通して、海やそこに棲息する生き物とふれあい、海の魅力を実感してもらい、海を好きになってもらうことを一番の目的としている。

S.E.Aプロジェクトを実施していく中で、さらに我々が注目したのは、保護者と子ども、先生と児童・生徒が共に海で遊び、海を感じることの大切さであった。

大人と子供が共に体験を共有することは安全管理、物理的な安全だけでなく、大人が心から活動を楽しむことで、子供たちは一層安心して体験を楽しむことができるものである。

このように子供たちの原体験を安全かつ良質で楽しく、豊かなものにすれば、子供たちは自ら進んで体験活動や学習活動に取り組むようになる。

本書が、1人でも多くの子供たちが母なる海に抱かれて、海で思い切り遊び、海の豊かさ、海のすばらしさを体感することに繋がることを願ってやまない。

国立青少年教育振興機構 理事 大本晋也

8歳までの海遊教室プログラム集

2019年3月 制作

4月 第一刷発行

[発行] 国立青少年教育振興機構

〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3番1号

TEL 03-6407-7622

- 本書で紹介している体験活動の中には、危険を伴う活動も含まれていますので、必ず大人の指導者のもと、活動を行ってください。
- 当該情報により読者の皆様が損害を被った場合でも本機構は一切責任を負えません。
- 無断転載・複製を禁じます。ご使用を希望される際には、発行元まで事前にご連絡願います。

国立青少年教育振興機構

海型施設の紹介



国立淡路青少年 交流の家

〒656-0543
兵庫県南あわじ
阿万塩屋町757-39
TEL 0799-55-2693
<http://awaji.niye.go.jp>



国立江田島青少年 交流の家

〒737-2126
広島県江田島市
江田島町津久茂1-1-1
TEL 0823-42-0660
<https://etajima.niye.go.jp>



国立沖縄青少年 交流の家

〒901-3595
沖縄県島尻郡
渡嘉敷村字渡嘉敷2760
TEL 098-987-2306
<http://okinawa.niye.go.jp>



国立若狭湾青少年 自然の家

〒917-0198
福井県小浜市田島区大浜
TEL 0770-54-3100
<http://wakasawan.niye.go.jp>



国立室戸青少年 自然の家

〒781-7108
高知県室戸市元乙1721
TEL 0887-23-2311
<http://muroto.niye.go.jp>



国立大隅青少年 自然の家

〒891-2396
鹿児島県鹿屋市花里町赤崩
TEL 0994-46-2222
<http://osumi.niye.go.jp>

